

【表紙】

| | |
|---|--|
| 【提出書類】 | 有価証券届出書 |
| 【提出先】 | 関東財務局長殿 |
| 【提出日】 | 平成25年6月21日提出 |
| 【発行者名】 | ニッセイアセットマネジメント株式会社 |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 宇治原 潔 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 |
| 【事務連絡者氏名】 | 投資信託企画部 茶木 健 |
| 【電話番号】 | 03 - 5533 - 4608 |
| 【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】 | ニッセイアメリカ高配当株ファンド（毎月決算型） ニッセイアメリカ高配当株ファンド（年2回決算型） |
| 【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】 | 当初募集額 各ファンドにつき、500億円を上限とします。 継続募集額 各ファンドにつき、3,000億円を上限とします。 |
| 【縦覧に供する場所】 | 該当事項はありません。 |

第一部【証券情報】

（１）【ファンドの名称】

ニッセイアメリカ高配当株ファンド（毎月決算型）

ニッセイアメリカ高配当株ファンド（年２回決算型）

上記ファンドの愛称として、ニッセイアメリカ高配当株ファンド（毎月決算型）を「ＵＳドリーム（毎月）」、ニッセイアメリカ高配当株ファンド（年２回決算型）を「ＵＳドリーム（年２回）」ということがあります。

以下、上記のそれぞれをまたは総称して「ファンド」または「ニッセイアメリカ高配当株ファンド」ということがあります。また、ニッセイアメリカ高配当株ファンド（毎月決算型）を「毎月決算型」、ニッセイアメリカ高配当株ファンド（年２回決算型）を「年２回決算型」ということがあります。

（２）【内国投資信託受益証券の形態等】

契約型の追加型証券投資信託振替受益権です。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後記「（１１）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第２条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、「振替機関等」といいます）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます）。委託会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

委託会社（ニッセイアセットマネジメント株式会社）の依頼により信用格付業者から提供されもしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供されもしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

（３）【発行（売出）価額の総額】

当初申込期間：各ファンドにつき、500億円を上限とします。

継続申込期間：各ファンドにつき、3,000億円を上限とします。

（４）【発行（売出）価格】

当初申込期間：受益権１口当たり１円です。

継続申込期間：取得申込受付日の翌営業日の基準価額です。

基準価額は日々変動します。なお、便宜上１万口当りに換算した価額で表示されます。

基準価額につきましては、販売会社または委託会社にお問合せください。また、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

なお、委託会社へは後記「（８）申込取扱場所」の照会先にお問合せください。

（５）【申込手数料】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額（当初申込期間：１口当たり１円）に3.15%（税抜3.0%）を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。

手数料率は変更となる場合があります。

申込手数料につきましては、販売会社にお問合せください。

なお、販売会社につきましては、後記「(8) 申込取扱場所」の照会先にお問合せください。

(6) 【申込単位】

販売会社が定める単位とします。

申込単位につきましては、販売会社にお問合せください。

なお、販売会社につきましては、後記「(8) 申込取扱場所」の照会先にお問合せください。

(7) 【申込期間】

当初申込期間：平成25年7月 8 日(月)～平成25年7月 9 日(火)

継続申込期間：平成25年7月10日(水)～平成26年9月26日(金)

なお、継続申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

申込取扱場所につきましては、以下にお問合せください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

(午前9時～午後5時 土、日、祝祭日は除きます)

ホームページ <http://www.nam.co.jp/>

(9) 【払込期日】

当初申込期間

取得申込者は、各販売会社が定める期日(詳しくは販売会社にお問合せください)までに、申込代金を各販売会社に支払うものとします。

各販売会社が取得申込者から受付けた申込金は、設定日(平成25年7月10日)に各々の販売会社より、委託会社の指定する口座を経由して、当初信託金として受託会社の指定するファンド口座(受託会社が再信託している場合は、当該再信託受託会社のファンド口座)に払込まれます。

継続申込期間

取得申込者は、各販売会社が定める期日(詳しくは販売会社にお問合せください)までに、申込代金を各販売会社に支払うものとします。

各取得申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に各々の販売会社より、委託会社の指定する口座を経由して、追加信託金として受託会社の指定するファンド口座(受託会社が再信託している場合は、当該再信託受託会社の指定するファンド口座)に払込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

払込取扱場所は申込取扱場所と同じです。以下にお問合せください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

(午前9時～午後5時 土、日、祝祭日は除きます)

ホームページ <http://www.nam.co.jp/>

(11) 【振替機関に関する事項】

振替機関は下記の通りです。

株式会社証券保管振替機構

(12) 【その他】

該当事項はありません。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

基本方針

ファンドは、信託財産の成長を図ることを目標に運用を行うことを基本方針とします。

ファンドの特色

米国株式等を実質的に投資することにより、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざします。

- ・米国の金融商品取引所に上場している相対的に配当利回りの高い「株式（優先株式を含みます）」、「MLP（マスター・リミテッド・パートナーシップ）」および「不動産投資信託（以下「リート」といいます）」を含む投資信託証券を実質的な主要投資対象とします。

< MLPとは >

- ・米国で行われている共同投資事業形態の1つで、米国の金融商品取引所で取引されています。
- ・MLPの多くは、天然資源の採掘・精製・輸送等に関連する事業を行っています。

- ・実質的な組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
為替ヘッジとは、為替変動による資産価値の変動を回避する取引のことをいいます。

米国株式等の実質的な運用はレッグ・メイソン・グループのクリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシーが行います。

- ・ファンドは、「LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）」および「ニッセイマネーマーケットマザーファンド」を投資対象とするファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。
ファンド・オブ・ファンズとは、投資対象を投資信託証券とするファンドです。

ファンド・オブ・ファンズの具体的な運用形態および米国株式等を実質的に運用するクリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシーについては、後記「（3）ファンドの仕組み <運用の形態等>」をご参照ください。

- ・「LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）」の組入比率は、原則として高位を保ちます。

「毎月決算型」と「年2回決算型」があります。

- ・「毎月決算型」は、原則として、毎月28日（休業日の場合は翌営業日）の決算時に収益分配を行います。
- ・「年2回決算型」は年2回（6・12月の各28日、休業日の場合は翌営業日）決算を行います。

将来の分配金の支払いおよび水準について、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては、前述のような運用ができない場合があります。

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



- 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
分配準備積立金：期中収益①および②のうち、当期の分配金として支払われず信託財産に留保された金額をいい、次期以降の分配金の支払いにあてることができます。
収益調整金：追加型株式投資信託において追加設定が行われることによって、既存の受益者の分配対象額が減らないようにするために設けられた勘定です。

■ 上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

信託金の上限

各ファンドにつき、3,000億円とします。ただし、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

ファンドの分類

追加型投信 / 海外 / 資産複合に属します。

課税上は株式投資信託として取扱われます。

ファンドの商品分類表・属性区分表は以下の通りです（該当区分を網掛け表示しています）。

商品分類表

| 単位型・追加型 | 投資対象地域 | 投資対象資産 (収益の源泉) |
|------------|----------------|---|
| 単位型 追加型 | 国内 海外 内外 | 株式 債券 不動産投信 その他資産 () 資産複合 |

属性区分表 「毎月決算型」

| 投資対象資産 | 決算頻度 | 投資対象地域 | 投資形態 | 為替ヘッジ |
|---|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------|-----------|
| 株式 一般 大型株 中小型株 | | グローバル | | |
| 債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 () | 年1回 年2回 年4回 年6回 (隔月) | 日本 北米 欧州 アジア オセアニア | ファミリー ファンド | あり () |
| 不動産投信 | 年12回 (毎月) | 中南米 | ファンド・ オブ・ ファンズ | なし |
| その他資産 (投資信託証券 (資産複合 (株式・その他資産(M LP)・不動産投信)資 産配分変更型)) | 日々 その他 () | アフリカ 中近東 (中東) エマー ジング | | |
| 資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型 | | | | |

属性区分表 「年2回決算型」

| 投資対象資産 | 決算頻度 | 投資対象地域 | 投資形態 | 為替ヘッジ |
|--------|------|--------|------|-------|
|--------|------|--------|------|-------|

| | | | | |
|--|--|--|----------------------|-----------|
| 株式 一般 大型株 中小型株 | | グローバル | | |
| 債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 () | 年1回 年2回 年4回 年6回 (隔月) | 日本 北米 欧州 アジア オセアニア | ファミリー ファンド | あり () |
| 不動産投信 | 年12回 (毎月) | 中南米 | ファンド・ オブ・ ファンズ | なし |
| その他資産 (投資信託証券 (資産複合 (株式・その他資産(M L P)・不動産投信)資 産配分変更型)) | 日々 その他 () | アフリカ 中近東 (中東) エマー ジング | | |
| 資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型 | | | | |

商品分類表

| | |
|-------|---|
| 追加型投信 | 一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。 |
| 海外 | 目論見書または約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。 |
| 資産複合 | 目論見書または約款において、複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。 |

属性区分表

| | |
|---|---|
| その他資産 (投資信託証券 (資産複合 (株式・その他資産 (MLP)・不動産 投信)資産配分 変更型)) | 目論見書または約款において、主たる投資対象を投資信託証券とし、ファンドの実質的な運用を投資信託証券にて行う旨の記載があるものをいう。 目論見書または約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行う旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいう。 目論見書または約款において、主として株式、MLPおよび不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券に投資する旨の記載があるものをいう。 |
| 年12回(毎月) | 目論見書または約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。 |
| 年2回 | 目論見書または約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。 |
| 北米 | 目論見書または約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。 |
| ファンド・オブ・ ファンズ | 一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第2条において、投資信託及び外国投資信託の受益証券並びに投資法人及び外国投資法人の投資証券への投資を目的とする投資信託をいう。 |
| 為替ヘッジなし | 目論見書または約款において、対円での為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは対円での為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。 |

前記以外の商品分類および属性区分の定義については、

一般社団法人 投資信託協会ホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

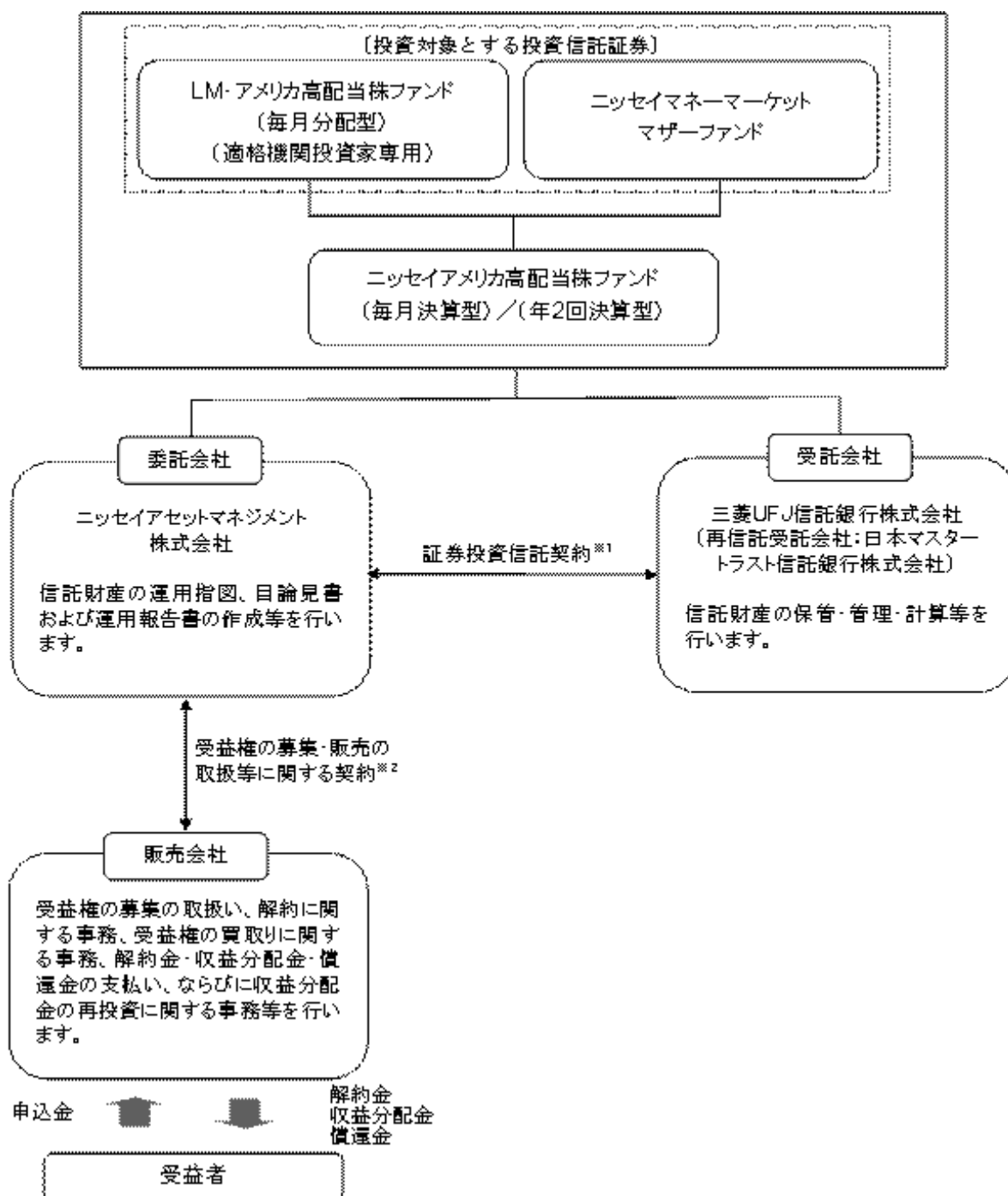
(2) 【ファンドの沿革】

平成25年6月21日 有価証券届出書提出

平成25年7月 8 日 申込受付開始

平成25年7月10日 信託契約締結、ファンドの設定、運用開始(予定)

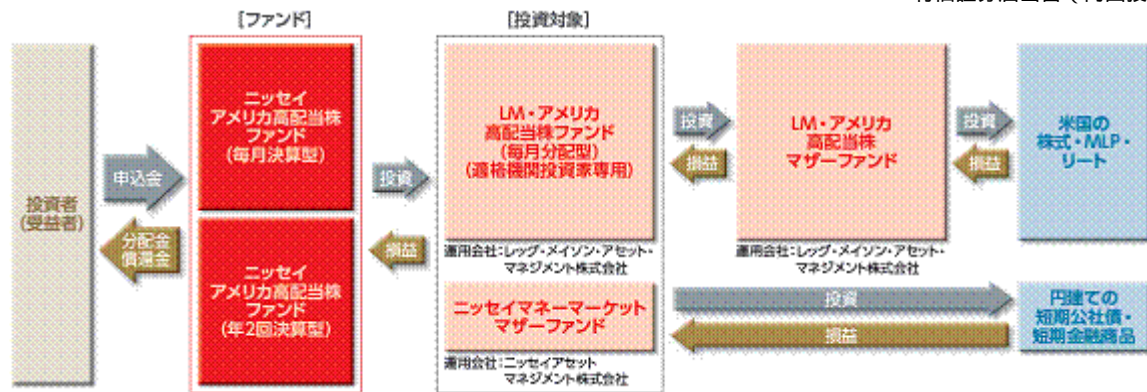
(3) 【ファンドの仕組み】



- 1 委託会社と受託会社との間で結ばれ、運用の基本方針、収益分配方法、受益権の内容等、ファンドの運用・管理について定めた契約です。この信託は、信託法（平成18年法律第108号）の適用を受けます。
- 2 委託会社と販売会社との間で結ばれ、委託会社が販売会社に受益権の募集の取扱い、解約に関する事務、解約金・収益分配金・償還金の支払い、ならびに収益分配金の再投資等の業務を委託し、販売会社がこれを引受けることを定めた契約です。

< 運用の形態等 >

ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。



「LM・アメリカ高配当株マザーファンド」の運用会社であるレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社は、その運用の指図に関する権限をレグ・メイソン・インク傘下のクリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシーに委託します。

クリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシー

クリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシーは、レグ・メイソン・インク傘下の米国ニューヨーク州に本社を置く運用会社です。経験豊富なポートフォリオ・マネージャーが、MLP、リート等を含む米国株式全般を投資対象として多様な投資戦略に基づく運用を行っています。約6兆円（約681億米ドル）の資産を運用しています。
2013年3月末現在、1米ドル＝94.05円で換算

（ご参考）レグ・メイソン・インクについて

レグ・メイソン・インクは1899年に設立され、100年以上の歴史があります。米国メリーランド州ボルティモアに本部を置くニューヨーク証券取引所上場のグローバル資産運用会社です。
・多くの優れた運用子会社を傘下に有する持ち株会社
・グループ全体で約63兆円（約6,646億米ドル）の資産を運用
2013年3月末現在、1米ドル＝94.05円で換算

委託会社の概況（平成25年4月末現在）

1. 委託会社の名称 : ニッセイアセットマネジメント株式会社
2. 本店の所在の場所 : 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
3. 資本金の額 : 100億円
4. 代表者の役職氏名 : 代表取締役社長 宇治原 潔
5. 金融商品取引業者登録番号 : 関東財務局長（金商）第369号
6. 設立年月日 : 平成7年4月4日
7. 沿革

昭和60年7月1日 ニッセイ・ビーオーティー投資顧問株式会社（後のニッセイ投資顧問株式会社）が設立され、投資顧問業務を開始しました。

平成7年4月4日 ニッセイ投信株式会社が設立され、同年4月27日、証券投資信託委託業務を開始しました。

平成10年7月1日 ニッセイ投信株式会社（存続会社）とニッセイ投資顧問株式会社（消滅会社）が合併し、ニッセイアセットマネジメント投信株式会社として投資一任業務ならびに証券投資信託委託業務の併営を開始しました。

平成12年5月8日 定款を変更し商号をニッセイアセットマネジメント株式会社としました。

8. 大株主の状況

| 名称 | 住所 | 保有株数 | 比率 |
|---------------------------|---------------------------------------|---------|--------|
| 日本生命保険相互会社 | 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 | 97,604株 | 90.00% |
| パトナム・ユーエス・ホールディングス・エルエルシー | アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストン市ワン・ポスト・オフィス・スクエア | 10,844株 | 10.00% |

2【投資方針】

(1)【投資方針】

ファンドは、配当等収益の確保と信託財産の長期的な成長をめざして運用を行います。

主として、LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）への投資を通じて、米国の金融商品取引所に上場している株式（優先株式を含みます）、MLP（マスター・リミテッド・パートナーシップ）およびリートを含む投資信託証券に実質的な投資を行います。

LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）の組入比率は、原則として高位を保つことを基本とします。

実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(2)【投資対象】

a 主な投資対象

国内籍投資信託のLM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）およびニッセイマネーマーケットマザーファンド（以下「指定投資信託証券」ということがあります）を主要投資対象とします。

なお、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券および短期金融商品等に直接投資をする場合があります。

< 指定投資信託証券の概要 >

1. LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）

| | |
|--------|---|
| 投資対象 | LM・アメリカ高配当株マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます）を主要投資対象とします。 当該マザーファンドの委託会社（運用会社）であるレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社は、その運用の指図に関する権限をレグ・メイソン・インク傘下の運用会社であるクリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシーに委託します。 |
| 運用方針 | <ul style="list-style-type: none"> マザーファンドを通じ、米国の金融商品取引所に上場している「株式（優先株式を含みます）」、「MLP」および「リートを含む投資信託証券」を実質的な主要投資対象とし、配当収入の確保と信託財産の長期的な成長をめざします。 マザーファンドにおいては、主に配当利回りに着目し、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資します。また、主に各銘柄の配当の継続性、配当の成長性、財務の健全性および株価の水準等に着目し、ポートフォリオを構築します。 マザーファンドが投資対象とする各資産クラス間の比率に目標は設けません。ただし、MLPへの投資比率は50%以下とします。 マザーファンドの組入比率は、原則として高位を維持します。 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。 |
| 主な投資制限 | <ul style="list-style-type: none"> 株式への実質投資割合には、制限を設けません。 MLPへの実質投資割合は、原則として純資産総額の50%以下とします。 同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において純資産総額の10%以下とします。 投資信託証券（マザーファンドおよび上場投資信託証券を除きます）への実質投資割合は、純資産総額の5%以下とします。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 |
| 決算日 | 原則として、毎月20日 |

| | |
|---------|---|
| 収益分配 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎決算日を分配日とし、分配対象額は、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます）等の全額とします。 ・分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。 ・分配対象額が少額等の場合には、分配を行わない場合があります。 |
| 信託報酬 | 純資産総額に対し、年率0.609%（税抜0.58%） （上記「投資対象」に記載の運用指図権限の委託先に対する報酬は、当該信託報酬に含まれます） |
| その他の費用 | 信託事務の諸費用 / その他諸費用（監査、受益権の管理および税務事務等の費用、純資産総額の0.05%を上限） / マザーファンドが投資対象とする投資信託証券の運用報酬等の費用 等 なお、信託事務の諸費用は運用状況等により変動し、またマザーファンドが投資対象とする投資信託証券の運用報酬等の費用は銘柄等が固定されていないため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。 |
| 購入時手数料 | ありません。 |
| 信託財産留保額 | ありません。 |
| 委託会社 | レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |

2. ニッセイマネーマーケットマザーファンド

| | |
|---------|---|
| 投資対象 | 円建ての短期公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。 |
| 運用方針 | 円建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益と流動性の確保をめざします。 |
| 主な投資制限 | <ul style="list-style-type: none"> ・株式への投資は転換社債の転換等による取得に限るものとし、その投資割合は純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建資産への投資は行いません。 |
| 信託報酬 | ありません。 |
| その他の費用 | 組入有価証券の売買委託手数料 / 信託事務の諸費用 等 なお、これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。 |
| 購入時手数料 | ありません。 |
| 信託財産留保額 | ありません。 |
| 決算日 | 原則として、4・10月の各15日 |
| 委託会社 | ニッセイアセットマネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |

b 約款に定める投資対象

投資の対象とする資産の種類

このファンドにおいて投資の対象とする資産（国内の通貨建表示のものに限ります）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ）

- イ．有価証券
- ロ．約束手形
- ハ．金銭債権

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

- イ．為替手形

有価証券

主として次の1. および2. に掲げる投資信託証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定める投資信託または外国投資信託の受益証券および第11号で定める投資証券または外国投資証券をいいます）のほか、次の3. から6. までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除き、国内の通貨建表示のものに限り

ます）に投資します。

- 1．LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）
- 2．ニッセイアセットマネジメント株式会社を委託会社とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託会社として締結された親投資信託であるニッセイマネーマーケットマザーファンド
- 3．コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
- 4．外国または外国の者の発行する証券または証書で、前記3．の証券の性質を有するもの
- 5．国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます）
- 6．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります）

なお、前記5．の証券を以下「公社債」といい、公社債にかかる運用は買い現先取引（売戻し条件付の買入れ）および債券貸借取引（現金担保付き債券借入れ）に限り行うことができます。

金融商品

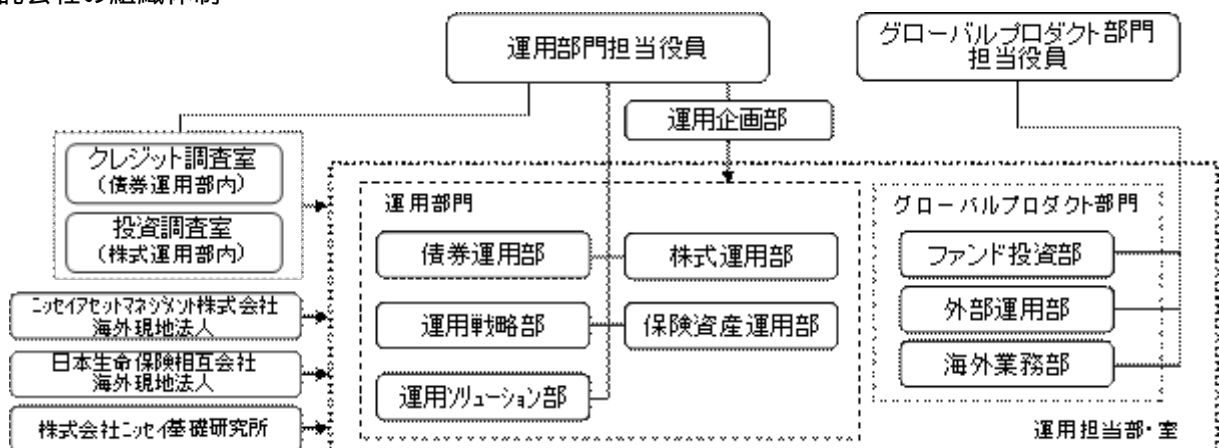
信託金を前記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下 において同じ）により運用することができます。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます）
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形

前記 にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、信託金を前記 に掲げる金融商品により運用することができます。

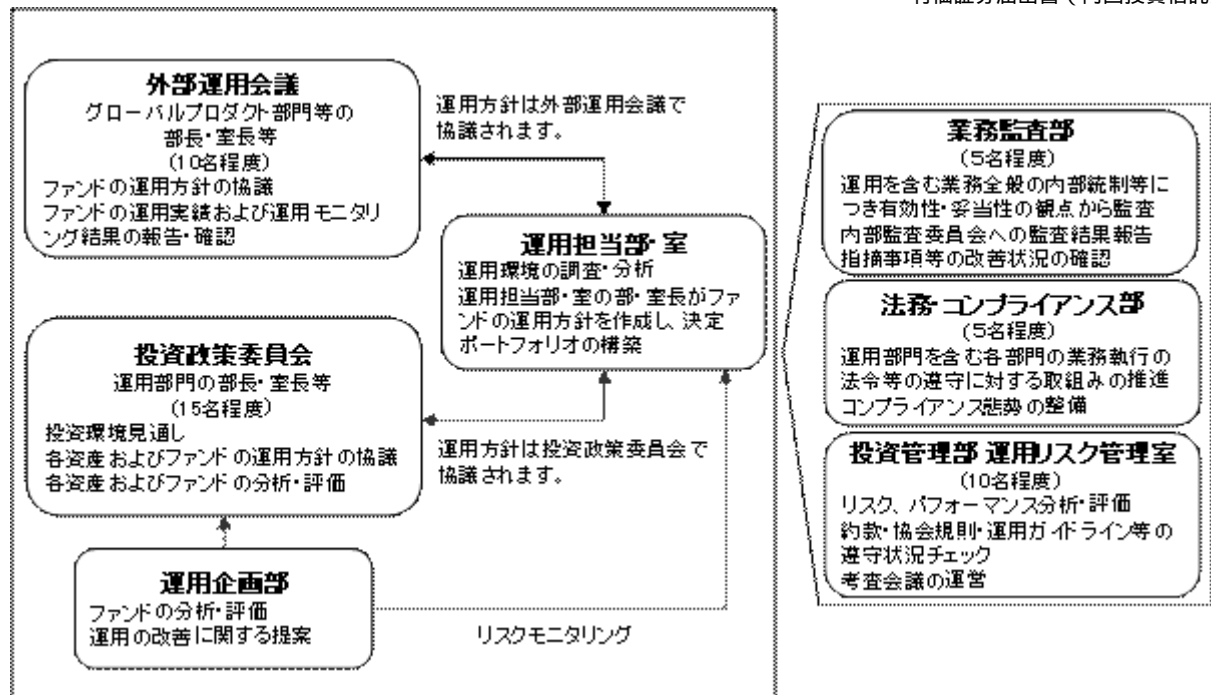
（3）【運用体制】

委託会社の組織体制



社内規程として、投資信託財産及び投資法人資産に係る運用業務規程およびポートフォリオ・マネジャー・サービス規程を定めています。また、各投資対象の適切な利用、リスク管理の推進を目的として、各投資対象の取扱いに関して規程を設けています。

内部管理体制および意思決定を監督する組織



< 受託会社に対する管理体制等 >

委託会社は、受託会社（再信託先も含む）に対して日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っています。また、SAS70、SSAE16またはISAE3402（受託業務にかかわる内部統制について評価する監査人の業務に関する基準）に基づく受託業務の内部統制の有効性についての監査報告書を、定期的に受託会社より受取っています。

上記運用体制は本書提出日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

（４）【分配方針】

原則として以下の方針に基づき分配を行います。

１．分配対象額の範囲

経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます）等の全額とします。

２．分配対象額についての分配方針

委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

３．留保益の運用方針

留保益（収益分配にあてず信託財産に留保した収益）については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配時期

「毎月決算型」

毎決算日とし、決算日は毎月28日（年12回、該当日が休業日の場合は翌営業日）です。

「年2回決算型」

毎決算日とし、決算日は6・12月の各28日（年2回、該当日が休業日の場合は翌営業日）です。

支払方法

< 分配金受取コースの場合 >

税金を差引いた後、原則として決算日から起算して5営業日目までにお支払いします。

< 分配金再投資コースの場合 >

税金を差引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。

将来の分配金の支払いおよび水準について、保証するものではありません。

（５）【投資制限】

a 約款に定める主な投資制限

投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への直接投資は行いません。

デリバティブの直接利用は行いません。

株式への直接投資は行いません。

b 約款に定めるその他の投資制限

公社債の借入れ

- 1．信託財産を効率的に運用するため、公社債の借入れを行うことができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供を行うものとします。
- 2．前記1．は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- 3．信託財産の一部解約等の事由により、前記2．の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するものとします。
- 4．前記1．の借入れにかかる品借料は信託財産中から支払われます。

資金の借入れ

- 1．信託財産を効率的に運用するため、ならびに信託財産を安定的に運用するため、一部解約にとともなう支払資金の手当て（一部解約にとともなう支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます）を行うことができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- 2．一部解約にとともなう支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は借入れを行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- 3．収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支払われる日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- 4．借入金の利息は信託財産中より支払われます。

3 【投資リスク】

ファンド（指定投資信託証券を含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。

ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

ファンドは、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。

ファンドのお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。

（１）投資リスクおよび留意事項

ファンドが有する主なリスクおよび留意事項は以下の通りです。

- ・株式投資リスク

株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化(倒産に至る場合も含む)等により、価格が下落することがあります。

・MLP投資リスク

ファンドが実質的に投資するMLPは、主として天然資源に関連する事業に投資するため、MLPの価格は、当該事業を取巻く環境・市況の変化ならびに金利変動等の影響を受け、また業績悪化(倒産に至る場合も含む)等により、価格が下落することがあります。

MLPに関する法制度(税制等)の変更により収益性が低下する場合、MLPの価格が下落することおよび分配金が減少することがあります。

・不動産投資信託(リート)投資リスク

保有不動産に関するリスク

リートの価格は、リートが保有する不動産の価値および賃貸料収入の増減等、また不動産市況や景気動向等の影響を受け変動します。

リートが保有する不動産の賃貸料や稼働率の低下、また自然災害等によって保有する不動産に損害等が生じた場合、リートの価格が下落することがあります。

金利変動リスク

リートは、金利が上昇する場合、他の債券の利回り等との比較から売却され、価格が下落することがあります。

また、金融機関等から借入れを行うリートは、金利上昇時には金利負担の増加により収益性が悪化し、リートの価格が下落することがあります。

信用リスク

リートは一般の法人と同様に倒産のリスクがあり、リートの経営や財務状況が悪化した場合、リートの価格が下落することがあります。

リートおよび不動産等の法制度に関するリスク

リートおよび不動産等に関する法制度(税制・建築規制等)の変更により不動産の価値および収益性が低下する場合、リートの価格が下落することおよび分配金が減少することがあります。

・為替変動リスク

原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。

・流動性リスク

市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

・MLPの税制に関する留意点

ファンドの実質的な投資対象であるLM・アメリカ高配当株マザーファンドが収受するMLPの分配金は、35%を上限として税金が差引かれます(差引かれた税金の一部は、還付される場合があります)。また、MLP投資においては、上記の税金に加え、その他の諸税が課される場合があります。これらの税金の支払いまたは還付にともない、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。

・上記は、平成25年4月末現在、委託会社が確認できる情報に基づいたものであり、MLPに関する税制等が変更された場合等には変更になることがあります。

・収益分配金に関する留意点

収益分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、収益分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

収益分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる収益分配金の一部または全部が実質的に

元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

・短期金融資産の運用に関する留意点

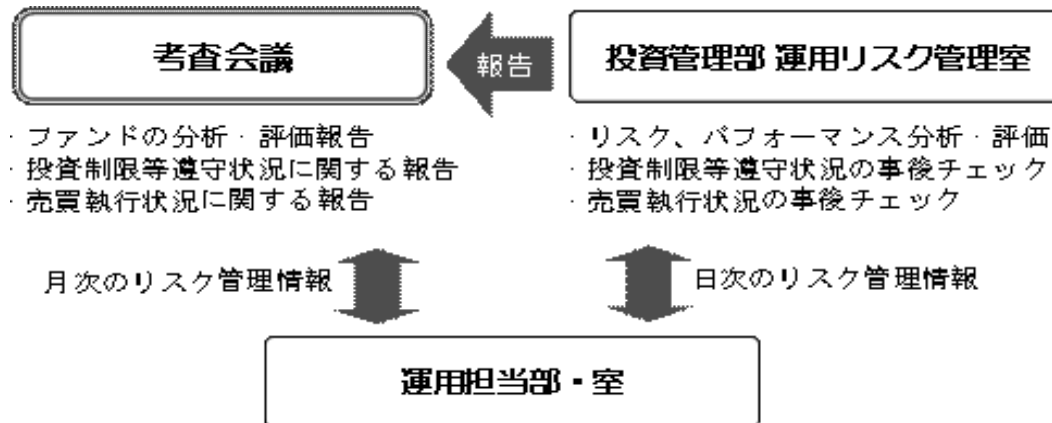
コマーシャル・ペーパー、コール・ローン等の短期金融資産で運用する場合、発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により損失を被ることがあります。

・委託会社等による当ファンド等の信託財産の保有に関する留意点

ファンドの信託財産の一部は、委託会社の資金により設定されることがあります。また、委託会社は平成25年4月末現在、ファンドの投資対象であるニッセイマネーマーケットマザーファンドを他のファンドを通じて実質的に99.9%保有しています。

当該保有分は委託会社により換金されることがあります。

(2) 投資リスク管理体制



1. 投資管理部 運用リスク管理室が、以下の通り管理を行います。

- ・運用状況をモニタリングし、リスク、パフォーマンスの分析・評価、ファンドの投資制限等遵守状況の事後チェックを行います。また、その情報を運用担当部・室に日々連絡するとともに、月次の審査会議で報告します。
- ・売買執行状況の事後チェックを行います。また、その情報を必要に応じて運用担当部・室に連絡するとともに、月次の審査会議で報告します。

2. 運用担当部・室は上記の連絡・報告を受けて、必要に応じてポートフォリオの改善を行います。

上記投資リスク管理体制は本書提出日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

4 【手数料等及び税金】

(1) 【申込手数料】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額（当初申込期間：1口当り1円）に3.15%（税抜3.0%）を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。

手数料率は変更となる場合があります。

分配金再投資コースで収益分配金を再投資する場合、手数料はかかりません。

償還乗換優遇および換金乗換優遇を受けられる場合があります。

スイッチングの際の申込手数料は、販売会社が定めるものとします。

販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。

前記についての詳細は、販売会社にお問合せください。なお、販売会社につきましては、以下にお問合せください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

（午前9時～午後5時 土、日、祝祭日は除きます）

ホームページ <http://www.nam.co.jp/>

（2）【換金（解約）手数料】

ありません。

（3）【信託報酬等】

信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.218%（税抜1.16%）の率をかけた額とし、その配分は次の通りです。

| 信託報酬の配分 | | |
|---------|----------|-----------|
| 委託会社 | 年0.2940% | （税抜0.28%） |
| 販売会社 | 年0.8925% | （税抜0.85%） |
| 受託会社 | 年0.0315% | （税抜0.03%） |

前記 の信託報酬については、毎計算期末および信託終了のときに信託財産中から支払います。

（参考1）投資対象とする指定投資信託証券の信託報酬率（年率）

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型） （適格機関投資家専用） | 0.609%（税抜0.58%） |
| ニッセイマネーマーケットマザーファンド | ありません。 |

（参考2）指定投資信託証券を含めた実質的な信託報酬

信託財産の純資産総額に年1.827%（税抜1.74%）程度をかけた額となります。

「実質的な信託報酬」とは、ファンドが投資対象とするLM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）を100%組入れた場合の費用です。上記は目安であり、各指定投資信託証券への投資比率が変動することにより、投資者が負担する実質的な信託報酬は変動します。

ファンドの投資対象とするLM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）において、実質的に投資する投資信託証券には運用報酬等の費用がかかりますが、銘柄等が固定されていないため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

（4）【その他の手数料等】

証券取引の手数料等

組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料および税金等は、信託財産中から支払います。

監査費用

ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に下記の監査報酬率をかけた額とし、信託財産中から支払います。

| 純資産総額 | 監査報酬率 |
|-------------------|-----------------------|
| 100億円超 の部分 | 年 0.00105% （税抜0.001%） |
| 50億円超 100億円以下 の部分 | 年 0.00210% （税抜0.002%） |
| 10億円超 50億円以下 の部分 | 年 0.00420% （税抜0.004%） |
| 10億円以下 の部分 | 年 0.02100% （税抜0.020%） |

信託事務の諸費用

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支払います。

借入金の利息

信託財産において一部解約金の支払資金の手当て、または再投資に関する収益分配金の支払資金の手当てを目的として資金借入を行った場合、当該借入金の利息は、借入れのつど信託財産中から支払います。

信託財産留保額

ありません。

上記の、およびの費用は、運用状況等により変動するため、事前に当該費用の金額、その上限額、計算方法を記載することはできません。また、「4 手数料等及び税金」に記載している費用と税金の合計額、その上限額、計算方法についても、運用状況および保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。

(5) 【課税上の取扱い】

課税対象

- 分配時 : 分配時の「普通分配金」に対して課税されます。
「元本払戻金（特別分配金）」は非課税です。
- 解約請求・償還時 : 個人の場合：解約請求時の解約価額または償還時の償還価額と取得価額の差益に対して課税されます。
法人の場合：解約請求時の解約価額または償還時の償還価額の個別元本超過額に対して課税されます。
- 買取請求時 : 買取請求時の買取価額と取得価額の差益に対して課税されます。
申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額も含まれます。

個人の課税の取扱い

- 分配時 : 分配時の普通分配金は、上場株式等の配当所得として、以下の税率により源泉徴収され申告不要制度が適用されます。
なお、確定申告を行い、総合課税（配当控除の適用はありません）または申告分離課税を選択することもできます。
- 解約請求・償還・買取請求時 : 解約請求、償還および買取請求時の差益は、上場株式等の譲渡所得として、以下の税率による申告分離課税の対象となり確定申告を行う必要があります。ただし、源泉徴収選択口座（特定口座）を選択した場合、申告不要制度が適用されます。
解約請求、償還および買取請求時の損益については、確定申告を行い、上場株式等の譲渡損益と通算することができます。

税率（個人）

| | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| 平成25年12月31日まで | 10.147%（所得税7%・復興特別所得税0.147%・地方税3%） |
| 平成26年1月1日から 平成49年12月31日まで | 20.315%（所得税15%・復興特別所得税0.315%・地方税5%） |
| 平成50年1月1日以降 | 20%（所得税15%・地方税5%） |

税率は原則として20%（所得税15%・地方税5%）ですが、平成25年12月31日までは軽減税率が適用されます。また、平成25年1月1日から平成49年12月31日までの間は、復興特別所得税（所得税額に2.1%をかけた額）が付加されるため上記の税率となります。

確定申告を行い、上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した場合に限ります）から上場株式等の譲渡損失を控除することができます。

法人の課税の取扱い（分配時、解約請求・償還時）

分配時の普通分配金、解約請求時の解約価額または償還時の償還価額の個別元本超過額に対して以下の税率により源泉徴収されます。

益金不算入制度の適用はありません。

税率（法人）

| | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 平成25年12月31日まで | 7.147%（所得税7%・復興特別所得税0.147%） |
| 平成26年1月1日から 平成49年12月31日まで | 15.315%（所得税15%・復興特別所得税0.315%） |
| 平成50年1月1日以降 | 15%（所得税15%） |

税率は原則として15%（所得税のみ）ですが、平成25年12月31日までは軽減税率が適用されます。また、平成25年1月1日から平成49年12月31日までの間は、復興特別所得税（所得税額に2.1%をかけた額）が付加されるため上記の税率となります。

個別元本

- ・追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- ・受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- ・受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から元本払戻金（特別分配金）を差引いた額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については販売会社毎に、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店毎に、分配金受取コースと分配金再投資コースの両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。

普通分配金と元本払戻金（特別分配金）

収益分配金は分配前の受益者の個別元本と基準価額の関係により、課税扱いの普通分配金と、個別元本の一部払戻しに相当する非課税扱いの元本払戻金（特別分配金）に区分されます。

| 普通分配金 | 元本払戻金（特別分配金） |
|--|---|
| <p>収益分配金落ち後の基準価額が受益者の個別元本と同額以上の場合、収益分配金の全額が普通分配金となります。</p> | <p>収益分配金落ち後の基準価額が受益者の個別元本を下回っている場合、収益分配金の範囲内でその下回っている部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、収益分配金から元本払戻金（特別分配金）を差引いた額が普通分配金となります。</p> |

投資者によっては非課税扱いとなる場合があります。

税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。
課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

ファンドは平成25年7月10日から運用を開始する予定のため、有価証券届出書提出日現在、該当事項はありません。

(1) 【投資状況】

該当事項はありません。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

該当事項はありません。

【分配の推移】

該当事項はありません。

【収益率の推移】

該当事項はありません。

(4) 【設定及び解約の実績】

該当事項はありません。

< 参考情報 >

○ 基準価額・純資産の推移

ファンドは、平成25年7月10日から運用を開始する予定のため、該当事項はありません。

○ 分配の推移

ファンドは、平成25年7月10日から運用を開始する予定のため、該当事項はありません。

○ 主要な資産の状況

ファンドは、平成25年7月10日から運用を開始する予定のため、該当事項はありません。

○ 年間収益率の推移

ファンドにはベンチマークはありません。

ファンドは、平成25年7月10日から運用を開始する予定のため、該当事項はありません。

ファンドの運用実績については、委託会社のホームページで開示される予定です。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

申込受付

当初申込期間においては、原則として毎営業日に各販売会社の定める時間まで申込みの受付を行います。

継続申込期間においては、原則として午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。ただし、申込日または申込日の翌営業日がニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、申込みの受付（スイッチングの場合も含まれます）を行いません。また、金融商品取引所の取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、申込みの受付を中止することおよび既に受付けた申込みの受付を取消すことがあります（スイッチングの場合も含まれます）。

金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。

取扱コース

分配金の受取方法により、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」の2つのコースがあります（販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります）。

分配金再投資コースを選択した場合、販売会社と「自動けいぞく（累積）投資契約」（同様の権利義務を規定する名称の異なる契約または規定も含まれます）を締結します。なお、販売会社によっては、定期引出契約を締結できる場合があります。

申込単位

各販売会社が定める単位とします。

販売会社および販売会社の取扱コースによって異なります。

申込価額（発行価額）

当初申込期間：受益権1口当たり1円とします。

継続申込期間：取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

販売価額

申込価額に申込手数料および申込手数料にかかる消費税等に相当する金額を加算した価額とします。

収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。

申込手数料

取得申込受付日の翌営業日の基準価額（当初申込期間：1口当たり1円）に3.15%（税抜3.0%）を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。

手数料率は変更となる場合があります。

分配金再投資コースで収益分配金を再投資する場合、手数料はかかりません。

償還乗換優遇および換金乗換優遇を受けられる場合があります。

スイッチングの際の申込手数料は、販売会社が定めるものとします。

販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。

その他

1. ファンドの取得申込者は、販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。

振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。

2. 定期引出契約とは、分配金再投資コースにおいて、分配金を再投資せず、定期的に分配金を受取るための契約です。
3. 償還乗換優遇とは、償還金の支払いを受けた販売会社で、取得申込みを行う場合に申込手数料の無料または割引等の優遇を受けられることです。それらの措置は販売会社が独自に定めることができます。
4. 換金乗換優遇とは、解約(買取)金の支払いを受けた販売会社で、取得申込みを行う場合に申込手数料の割引等の優遇を受けられることです。それらの措置は販売会社が独自に定めることができます。
5. スwitchingとは、保有しているファンドの換金と同時に乗換えるファンドを購入する取引です。

保有しているファンドの換金の際に税金が差引かれます。税金についての詳細は「第1

ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (5) 課税上の取扱い」をご確認ください。

6. 詳細については、販売会社にお問合せください。なお、販売会社については、委託会社にお問合せください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

(午前9時~午後5時 土、日、祝祭日は除きます)

ホームページ <http://www.nam.co.jp/>

2【換金(解約)手続等】

換金受付

販売会社において、原則として毎営業日に換金の受付けを行います(ただし、換金申込日または換金申込日の翌営業日がニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、換金の受付け(switchingの場合も含みます)を行いません)。

原則として午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。

金融商品取引所の取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、換金の受付けを中止することおよび既に受付けた換金の受付けを取消することがあります(switchingの場合も含みます)。

換金方法

「解約請求」および「買取請求」の2つの方法があります。

換金単位

各販売会社が定める単位とします。

販売会社および販売会社の取扱コースによって異なります。

換金価額

<解約請求の場合>

解約価額：解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。

<買取請求の場合>

買取価額：買取請求受付日の翌営業日の基準価額とします(税法上の一定の要件を満たしている場合)。それ以外の場合は、買取請求受付日の翌営業日の基準価額から、当該買取りに関して当該買取りを行う販売会社にかかる源泉徴収税額に相当する金額を差引いた額とします。

換金方法および受益者によって課税上の取扱いが異なります。詳細は「第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (5) 課税上の取扱い」をご確認ください。

換金手数料はありません。

信託財産留保額

ありません。

支払開始日

解約請求受付日または買取請求受付日から起算して、原則として7営業日目からお支払いします。

その他

1. 受益者が解約請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行います。委託会社は、解約請求を受付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。なお、解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該解約にかかる受益権口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
2. 換金請求の受付が中止された場合には、受益者は当該中止以前に行った当日の換金請求を撤回することができます。ただし、受益者が換金請求を撤回しない場合には、当該受益権の換金価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に換金請求を受付けたものとして前記の規定に準じて算出した価額とします。
3. 詳細については、販売会社にお問合せください。なお、販売会社については、委託会社にお問合せください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

（午前9時～午後5時 土、日、祝祭日は除きます）

ホームページ <http://www.nam.co.jp/>

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を差引いた金額（「純資産総額」といいます）を計算日の受益権総口数で割った金額をいいます。

ファンドの主な投資資産の評価方法の概要は以下の通りです。

| 主な投資資産 | 評価方法の概要 |
|----------|-----------------|
| 指定投資信託証券 | 計算日の基準価額で評価します。 |

外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます）の円換算については、原則として国内における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

予約為替の評価は、原則として国内における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

基準価額は、原則として委託会社の毎営業日に計算されます。

基準価額につきましては、販売会社または委託会社にお問合せください。また、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

なお、委託会社へは以下にお問合せください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

（午前9時～午後5時 土、日、祝祭日は除きます）

ホームページ <http://www.nam.co.jp/>

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

平成25年7月10日から平成35年2月17日までですが、委託会社は、信託期間終了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することができます。

(4) 【計算期間】

計算期間はファンドによって異なり、以下の通りです。

「毎月決算型」

原則として、毎月29日から翌月28日までとします。ただし、第1計算期間は、平成25年7月10日から平成25年7月29日までとします。

「年2回決算型」

毎年6月29日から12月28日まで、および12月29日から翌年6月28日までとします。ただし、第1計算期間は、平成25年7月10日から平成25年12月30日までとします。

上記にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日はファンドの償還日とします。

(5) 【その他】

繰上償還

1. 委託会社は、ファンドが主要投資対象とする投資信託証券である「LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）」が存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、ファンドを終了させます。この場合、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
2. 委託会社は、信託期間中において、下記の理由により、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、ファンドを終了させることができます。この場合、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
 - ・ 受益権の口数が10億口を下回っている場合
 - ・ この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき
 - ・ やむを得ない事情が発生したとき
3. 委託会社は、前記2.により解約するときには、書面による決議（以下「書面決議」といいます）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までにこの信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発します。
4. 前記3.の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下当該4.において同じ）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
5. 前記3.の書面決議は議決権を行使することのできる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
6. 前記3.から5.までの規定は、前記1.の規定に基づき信託契約を解約するとき、あるいは委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に

かかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記 3 . から 5 . までに規定するこの信託契約の解約の手続きを行うことが困難な場合には適用しません。

- 7 . 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、この信託契約を解約しファンドを終了させます。
- 8 . 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社はこの信託契約を解約し、ファンドを終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、ファンドは、後記「 約款の変更等 2 . 」の書面決議が否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
- 9 . 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、後記「 約款の変更等 」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、ファンドを終了させます。
- 10 . 償還金については、原則として償還日から起算して 5 営業日目（償還日が休業日の場合には翌営業日から起算して 5 営業日目）までにお支払いします。

約款の変更等

- 1 . 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、約款は当該「 約款の変更等 」に定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- 2 . 委託会社は、前記 1 . の事項（前記 1 . の変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限ります。以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の 2 週間前までに、この約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- 3 . 前記 2 . の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下当該 3 . において同じ）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議に賛成するものとみなします。
- 4 . 前記 2 . の書面決議は議決権を行使することができる受益者の半数以上であつて、当該受益者の議決権の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行います。
- 5 . 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- 6 . 前記 2 . から 5 . までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- 7 . 前記 1 . から 6 . までの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあつても、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。
- 8 . 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて約款を変更しようとするときは、前記 1 . から 7 . までの規定にしたがいます。

反対者の買取請求権

前記「繰上償還」に規定する信託契約の解約または前記「約款の変更等」に規定する重大な約款の変更等を行う場合には、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権の買取りを請求することができます。この買取請求権の内容および買取請求の手続きに関する事項は、前記「繰上償還 3.」または「約款の変更等 2.」に規定する書面に付記します。

公告

電子公告により行い、委託会社のホームページ（<http://www.nam.co.jp/>）に掲載します。

電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

運用報告書の作成

委託会社は、ファンドの6月および12月の計算期間の末日毎および償還時に期間中の運用経過のほか信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した運用報告書を作成し、これを販売会社を通じてファンドの知っている受益者に交付します。

信託事務処理の再信託

受託会社は、ファンドにかかる信託事務の処理の一部について、日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

関係法人との契約の更改等に関する手続き

委託会社と販売会社との間で締結された「受益権の募集・販売の取扱等に関する契約」は、契約期間満了の3ヵ月前までに委託会社、販売会社いずれかにより別段の意思表示がない限り、1年毎に自動更新されます。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は以下の通りです。

(1) 収益分配金に対する請求権

受益者には、委託会社の決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利があります。

分配金受取コースの場合、税金を差引いた後、原則として決算日から起算して5営業日目までに販売会社において支払いを開始します。ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間支払いを請求しないときは、その権利を失います。

分配金再投資コースの場合、税金を差引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(2) 償還金に対する請求権

受益者には、持分に応じて償還金を請求する権利があります。原則として償還日から起算して5営業日目（償還日が休業日の場合には翌営業日から起算して5営業日目）までに販売会社において支払いを開始します。ただし、受益者が、償還金について支払開始日から10年間支払いを請求しないときは、その権利を失います。

(3) 解約請求権

受益者には、持分に応じて解約請求する権利があります。権利行使の方法等については、前記「2 換金（解約）手続等」の項をご参照ください。

(4) 帳簿閲覧権

受益者は委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する法令で定められた帳簿書類の閲覧を請求することができます。

(5) 書面決議における議決権

委託会社が、書面決議において信託契約の解約（監督官庁の命令による解約等の場合を除きます）または重大な約款の変更等を行おうとする場合において、受益者は、受益権の口数に応じて議決権を有し、これを行使することができます。

(6) 反対者の買取請求権

前記「3 資産管理等の概要 (5) その他 反対者の買取請求権」の項をご参照ください。

(7) 他の受益者の氏名等の開示の請求の制限

受益者は、委託会社または受託会社に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行うことはできません。

他の受益者の氏名または名称および住所

他の受益者が有する受益権の内容

第3【ファンドの経理状況】

ファンドの運用は、平成25年7月10日から開始する予定であり、ファンドは有価証券届出書提出日現在、何ら資産を保有しておりません。

ファンドの会計監査は、有限責任監査法人トーマツにより行われます。

ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成されます。監査証明を受けたファンドの財務諸表は6ヵ月毎に作成する有価証券報告書に掲載されます。

委託会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」の定めるところにより、6月および12月の信託財産の計算期間末日毎に運用報告書を作成し、かつ知れている受益者に交付します。

ファンドの計算期間は、以下の通りです。

「毎月決算型」

原則として、毎月29日から翌月28日までとします。ただし、第1計算期間は、平成25年7月10日から平成25年7月29日までとします。

「年2回決算型」

毎年6月29日から12月28日まで、および12月29日から翌年6月28日までとします。ただし、第1計算期間は、平成25年7月10日から平成25年12月30日までとします。

各計算期間終了日に該当する日が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

1【財務諸表】

(1)【貸借対照表】

該当事項はありません。

(2)【損益及び剰余金計算書】

該当事項はありません。

(3)【注記表】

該当事項はありません。

(4)【附属明細表】

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

該当事項はありません。

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

（1）受益証券の名義書換等

該当事項はありません。

ファンドの受益権は、振替受益権となり、委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であつて、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

（2）受益者に対する特典

ありません。

（3）譲渡制限

譲渡制限はありません。ただし、受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

（4）受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

前記の申請のある場合には、前記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

前記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

（5）受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

（6）質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、解約請求の受付け、解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

（1）資本金の額

平成25年4月末現在の委託会社の資本金は、100億円です。

委託会社が発行する株式の総数は13万1,560株で、うち発行済株式総数は10万8,448株です。

最近5年間における資本金の増減はありません。

（2）委託会社等の機構

会社の意思決定機構

委託会社は最低3名で構成される取締役会により運営されます。取締役は委託会社の株主であることを要しません。取締役は株主総会の決議により選任され、その任期は就任後2年以内の最終の決算期に関する定時株主総会終結のときまでとします。ただし、任期満了前に退任した取締役の補欠として選任された取締役の任期は、退任者の残存期間とします。

取締役会は、取締役の中から代表取締役を選任するとともに、取締役社長1名を選任します。また、取締役会は、取締役会長1名、取締役副社長、専務取締役および常務取締役各若干名を選任することができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として取締役社長が招集し、その議長を務めます。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって決議します。

投資運用の意思決定機構

ファンドの個々の取引の運用指図は、運用基本方針、運用内規および月次運用方針に基づき、委託会社のファンドマネジャーが行います。

ファンド毎の運用基本方針、具体的な運用ルールである運用内規および月次運用方針については、運用部門中心に構成される協議機関において市場動向・ファンダメンタルズ等の投資環境分析を踏まえ協議され、運用担当部（室）の部（室）長が決定します。

ファンドマネジャーは、運用基本方針、運用内規および月次運用方針に基づき、具体的な銘柄選択を行い、組入有価証券等の売買の指図を行います。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

平成25年4月末現在、委託会社が運用するファンドの本数および純資産総額合計額は以下の通りです（ファンド数、純資産総額合計額とも親投資信託を除きます）。

| 種類 | ファンド数（本） | 純資産総額合計額 （単位：億円） |
|------------|----------|---------------------|
| 追加型株式投資信託 | 186 | 22,403 |
| 追加型公社債投資信託 | 0 | 0 |
| 単位型株式投資信託 | 13 | 1,691 |
| 単位型公社債投資信託 | 0 | 0 |
| 合計 | 199 | 24,095 |

純資産総額合計額の金額については、億円未満の端数を切り捨てて記載しておりますので、表中の個々の金額の合計と合計欄の金額とは一致しないことがあります。

3【委託会社等の経理状況】

1．財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

- (1) 委託会社であるニッセイアセットマネジメント株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づき作成しております。
- (2) 当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号、以下「中間財務諸表等規則」という。）第38条及び第57条の規定により、中間財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」に基づき作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき第17期事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）の財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

また、第18期事業年度に係る中間会計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツによる中間監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成23年3月31日) | | 当事業年度 (平成24年3月31日) | |
|-------------|-----------------------|------------|-----------------------|------------|
| 資産の部 | | | | |
| 流動資産 | | | | |
| 現金・預金 | | 6,270,894 | | 1,324,746 |
| 有価証券 | | 11,023,094 | | 8,309,605 |
| 前払費用 | 1 | 195,613 | 1 | 200,463 |
| 未収委託者報酬 | | 1,751,247 | | 1,465,803 |
| 未収運用受託報酬 | 1 | 656,202 | 1 | 778,921 |
| 未収投資助言報酬 | 1 | 171,421 | 1 | 154,740 |
| 繰延税金資産 | | 295,260 | | 273,967 |
| その他 | | 64,039 | | 44,410 |
| 流動資産合計 | | 20,427,773 | | 12,552,657 |
| 固定資産 | | | | |
| 有形固定資産 | | | | |
| 建物 | 2 | 133,329 | 2 | 115,964 |
| 車両 | 2 | 5,095 | 2 | 2,970 |
| 器具備品 | 2 | 179,790 | 2 | 148,251 |
| 有形固定資産合計 | | 318,215 | | 267,186 |
| 無形固定資産 | | | | |
| ソフトウェア | | 1,372,451 | | 1,228,624 |
| ソフトウェア仮勘定 | | 51,575 | | 55,978 |
| その他 | | 8,203 | | 8,171 |
| 無形固定資産合計 | | 1,432,230 | | 1,292,774 |
| 投資その他の資産 | | | | |
| 投資有価証券 | | 16,986,491 | | 25,328,584 |
| 差入保証金 | 1 | 284,824 | 1 | 283,591 |
| 繰延税金資産 | | 500,589 | | 437,364 |
| その他 | | 17 | | 38 |
| 投資その他の資産合計 | | 17,771,923 | | 26,049,578 |
| 固定資産合計 | | 19,522,370 | | 27,609,540 |
| 資産合計 | | 39,950,144 | | 40,162,198 |
| 負債の部 | | | | |
| 流動負債 | | | | |
| 預り金 | | 28,412 | | 30,600 |
| 未払収益分配金 | | 4,324 | | - |
| 未払償還金 | | 151,440 | | 148,104 |
| 未払手数料 | 1 | 683,709 | 1 | 560,208 |
| 未払運用委託報酬 | | 391,985 | | 396,073 |
| 未払投資助言報酬 | | 106,084 | | 126,813 |
| その他未払金 | 1 | 187,916 | 1 | 205,721 |
| 未払費用 | 1 | 119,099 | 1 | 122,185 |
| 未払法人税等 | | 145,709 | | 149,239 |
| 賞与引当金 | | 552,829 | | 538,159 |
| その他 | | 42,559 | | 22,815 |
| 流動負債合計 | | 2,414,070 | | 2,299,923 |

| | | |
|--------------|------------|------------|
| 固定負債 | | |
| 退職給付引当金 | 644,223 | 767,977 |
| 役員退職慰労引当金 | 11,275 | 13,630 |
| その他 | 1 66,068 | 1 4,973 |
| 固定負債合計 | 721,566 | 786,580 |
| 負債合計 | 3,135,637 | 3,086,503 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 10,000,000 | 10,000,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 8,281,840 | 8,281,840 |
| 資本剰余金合計 | 8,281,840 | 8,281,840 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | 139,807 | 139,807 |
| その他利益剰余金 | | |
| 配当準備積立金 | 120,000 | 120,000 |
| 研究開発積立金 | 70,000 | 70,000 |
| 別途積立金 | 350,000 | 350,000 |
| 繰越利益剰余金 | 17,625,364 | 17,833,930 |
| 利益剰余金合計 | 18,305,171 | 18,513,737 |
| 株主資本合計 | 36,587,011 | 36,795,577 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 227,494 | 280,116 |
| 評価・換算差額等合計 | 227,494 | 280,116 |
| 純資産合計 | 36,814,506 | 37,075,694 |
| 負債・純資産合計 | 39,950,144 | 40,162,198 |

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日) | 当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日) |
|----------|--|--|
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | 11,004,207 | 9,952,331 |
| 運用受託報酬 | 3,873,347 | 3,987,169 |
| 投資助言報酬 | 751,384 | 705,920 |
| 業務受託料 | 47,100 | 47,100 |
| 営業収益計 | 15,676,039 | 14,692,522 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | 4,548,772 | 4,131,652 |
| 広告宣伝費 | 110,792 | 27,241 |
| 公告費 | 466 | 323 |
| 調査費 | 2,708,450 | 2,700,559 |
| 支払運用委託報酬 | 1,442,927 | 1,294,778 |
| 支払投資助言報酬 | 448,879 | 479,438 |
| 委託調査費 | 20,521 | 42,633 |
| 調査費 | 796,121 | 883,708 |
| 委託計算費 | 104,902 | 101,748 |
| 営業雑経費 | 543,623 | 390,063 |
| 通信費 | 57,003 | 55,182 |

| | | | | |
|--------------|---|-----------|---|-----------|
| 印刷費 | | 175,972 | | 133,820 |
| 協会費 | | 17,084 | | 17,984 |
| その他営業雑経費 | | 293,563 | | 183,076 |
| 営業費用計 | | 8,017,006 | | 7,351,588 |
| 一般管理費 | | | | |
| 役員報酬 | 1 | 62,167 | 1 | 59,718 |
| 給料・手当 | | 2,985,814 | | 3,012,857 |
| 賞与引当金繰入額 | | 547,443 | | 537,887 |
| 賞与 | | 256,821 | | 260,246 |
| 福利厚生費 | | 550,141 | | 566,829 |
| 退職給付費用 | | 163,211 | | 156,575 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | | 5,550 | | 5,455 |
| 役員退職慰労金 | | 637 | | 650 |
| 其他人件費 | | 135,147 | | 115,587 |
| 不動産賃借料 | | 635,759 | | 632,434 |
| その他不動産経費 | | 38,835 | | 27,417 |
| 交際費 | | 14,220 | | 14,037 |
| 旅費交通費 | | 87,941 | | 90,473 |
| 固定資産減価償却費 | | 627,055 | | 654,122 |
| 租税公課 | | 77,387 | | 79,628 |
| 業務委託費 | | 183,393 | | 179,945 |
| 器具備品費 | | 178,045 | | 151,259 |
| 保守料 | | 92,961 | | 87,228 |
| 保険料 | | 63,246 | | 60,291 |
| 寄付金 | | 820 | | 5,000 |
| 諸経費 | | 39,883 | | 56,644 |
| 一般管理費計 | | 6,746,486 | | 6,754,291 |
| 営業利益 | | 912,546 | | 586,642 |
| 営業外収益 | | | | |
| 受取利息 | | 3,284 | | 1,966 |
| 有価証券利息 | | 107,994 | | 93,236 |
| 受取配当金 | | 102,558 | | 45,856 |
| その他営業外収益 | | 22,945 | | 17,359 |
| 営業外収益計 | | 236,783 | | 158,419 |
| 営業外費用 | | | | |
| 為替差損 | | 9,852 | | 6,419 |
| 賃貸借契約解約損 | | - | | 4,124 |
| その他営業外費用 | | 15,292 | | 1,248 |
| 営業外費用計 | | 25,144 | | 11,792 |
| 経常利益 | | 1,124,185 | | 733,269 |
| 特別利益 | | | | |
| 投資有価証券売却益 | | 35,991 | | 25,290 |
| 投資有価証券償還益 | | 351 | | - |
| 事故受取保険金 | 3 | 5,462 | 3 | 14,136 |
| 清算配当金 | | - | 5 | 59,327 |
| 特別利益計 | | 41,804 | | 98,754 |
| 特別損失 | | | | |
| 投資有価証券売却損 | | 17,676 | | 1,778 |
| 投資有価証券償還損 | | 355,993 | | 87,378 |
| 投資有価証券評価損 | | 5,706 | | - |
| 固定資産除却損 | 4 | 16,762 | 4 | 19,104 |
| 事故損失賠償金 | 2 | 22,343 | 2 | 39,244 |
| 特別損失計 | | 418,482 | | 147,506 |
| 税引前当期純利益 | | 747,507 | | 684,516 |

| | | |
|--------------|---------|---------|
| 法人税、住民税及び事業税 | 272,647 | 263,157 |
| 法人税等調整額 | 37,686 | 77,232 |
| 法人税等合計 | 310,333 | 340,390 |
| 当期純利益 | 437,174 | 344,126 |

(3) 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) | 当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) |
|----------|--|--|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 当期首残高 | 10,000,000 | 10,000,000 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 10,000,000 | 10,000,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | |
| 当期首残高 | 8,281,840 | 8,281,840 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 8,281,840 | 8,281,840 |
| 資本剰余金合計 | | |
| 当期首残高 | 8,281,840 | 8,281,840 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 8,281,840 | 8,281,840 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | | |
| 当期首残高 | 139,807 | 139,807 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 139,807 | 139,807 |
| その他利益剰余金 | | |
| 配当準備積立金 | | |
| 当期首残高 | 120,000 | 120,000 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 120,000 | 120,000 |
| 研究開発積立金 | | |
| 当期首残高 | 70,000 | 70,000 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 70,000 | 70,000 |
| 別途積立金 | | |
| 当期首残高 | 350,000 | 350,000 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 350,000 | 350,000 |
| 繰越利益剰余金 | | |
| 当期首残高 | 17,323,750 | 17,625,364 |
| 当期変動額 | | |

| | | |
|-------------------------|------------|------------|
| 剰余金の配当 | 135,560 | 135,560 |
| 当期純利益 | 437,174 | 344,126 |
| 当期変動額合計 | 301,614 | 208,566 |
| 当期末残高 | 17,625,364 | 17,833,930 |
| 利益剰余金合計 | | |
| 当期首残高 | 18,003,557 | 18,305,171 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 135,560 | 135,560 |
| 当期純利益 | 437,174 | 344,126 |
| 当期変動額合計 | 301,614 | 208,566 |
| 当期末残高 | 18,305,171 | 18,513,737 |
| 株主資本合計 | | |
| 当期首残高 | 36,285,397 | 36,587,011 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 135,560 | 135,560 |
| 当期純利益 | 437,174 | 344,126 |
| 当期変動額合計 | 301,614 | 208,566 |
| 当期末残高 | 36,587,011 | 36,795,577 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 当期首残高 | 93,537 | 227,494 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | 133,956 | 52,622 |
| 当期変動額合計 | 133,956 | 52,622 |
| 当期末残高 | 227,494 | 280,116 |
| 評価・換算差額等合計 | | |
| 当期首残高 | 93,537 | 227,494 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | 133,956 | 52,622 |
| 当期変動額合計 | 133,956 | 52,622 |
| 当期末残高 | 227,494 | 280,116 |
| 純資産合計 | | |
| 当期首残高 | 36,378,935 | 36,814,506 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 135,560 | 135,560 |
| 当期純利益 | 437,174 | 344,126 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | 133,956 | 52,622 |
| 当期変動額合計 | 435,570 | 261,188 |
| 当期末残高 | 36,814,506 | 37,075,694 |

（重要な会計方針）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）によっております。

その他有価証券

時価のあるもの

…決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

時価のないもの

…移動平均法に基づく原価法によっております。なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の財務諸表を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法によっております。

主な耐用年数は、建物3～15年、車両6年、器具備品2～20年であります。

無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4. 引当金の計上基準

賞与引当金

従業員への賞与の支給に充てるため、当事業年度末在籍者に対する支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

退職給付引当金

従業員への退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額（簡便法により自己都合退職による期末要支給額の100%）を計上しております。

なお受入出向者については、退職給付負担金を出向元に支払っているため、退職給付引当金は計上しておりません。

役員退職慰労引当金

役員への退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. リース取引の処理方法

平成19年3月31日以前に契約をした、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

6. 消費税及び地方消費税の会計処理

税抜方式によっております。

(追加情報)

当会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

(注記事項)

(貸借対照表関係)

1. 関係会社に対する資産及び負債は以下のとおりであり、すべて親会社に対するものであります。

| | 前事業年度 (平成23年3月31日) | 当事業年度 (平成24年3月31日) |
|----------|-----------------------|-----------------------|
| 前払費用 | 60,402千円 | 52,725千円 |
| 未収運用受託報酬 | 296,706 | 383,091 |
| 未収投資助言報酬 | 152,956 | 135,967 |
| 差入保証金 | 280,262 | 280,262 |
| 未払手数料 | 88,132 | 90,057 |
| その他未払金 | 14,956 | 19,525 |
| 未払費用 | 60,986 | 59,677 |
| その他固定負債 | 66,068 | 4,973 |

| | | |
|--------------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 2. 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。 | | |
| | 前事業年度 (平成23年3月31日) | 当事業年度 (平成24年3月31日) |
| 建物 | 187,418千円 | 206,955千円 |
| 車両 | 1,919 | 4,043 |
| 器具備品 | 592,884 | 573,767 |
| 計 | 782,221 | 784,767 |

(損益計算書関係)

| | | |
|---|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 役員報酬の限度額は以下のとおりであります。 | | |
| 取締役 | 180,000千円 | |
| 監査役 | 30,000千円 | |
| 2. 事故損失賠償金は、当社の事務処理誤り等により受託資産に生じた損失を当社が賠償したものであります。 | | |
| 3. 事故受取保険金は、当社が賠償した当社の事務処理誤り等による受託資産に生じた損失に係る損害賠償責任保険契約に基づき、受取った保険金であります。 | | |
| 4. 固定資産除却損の内訳は以下のとおりであります。 | | |
| | 前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日) | 当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日) |
| 建物 | 8,300千円 | -千円 |
| 器具備品 | 8,461 | 11,393 |
| その他 | - | 7,711 |
| 計 | 16,762 | 19,104 |
| 5. 清算配当金は、会社型投資信託の清算配当であります。 | | |

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

| | 当事業年度期首 株式数 (株) | 当事業年度 増加株式数 (株) | 当事業年度 減少株式数 (株) | 当事業年度末 株式数 (株) |
|-------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 108,448 | - | - | 108,448 |
| 合計 | 108,448 | - | - | 108,448 |

2. 配当に関する事項

配当金支払額

平成22年6月25日開催の定時株主総会決議による配当に関する事項

| | |
|----------|------------|
| 株式の種類 | 普通株式 |
| 配当金の総額 | 135,560千円 |
| 1株当たり配当額 | 1,250円 |
| 基準日 | 平成22年3月31日 |
| 効力発生日 | 平成22年6月25日 |

基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成23年6月27日開催の定時株主総会決議において、次のとおり決議することを予定しております。

| | |
|----------|------------|
| 株式の種類 | 普通株式 |
| 配当金の総額 | 135,560千円 |
| 配当の原資 | 利益剰余金 |
| 1株当たり配当額 | 1,250円 |
| 基準日 | 平成23年3月31日 |
| 効力発生日 | 平成23年6月27日 |

当事業年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数

| | 当事業年度期首 株式数 (株) | 当事業年度 増加株式数 (株) | 当事業年度 減少株式数 (株) | 当事業年度末 株式数 (株) |
|-------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 108,448 | - | - | 108,448 |
| 合計 | 108,448 | - | - | 108,448 |

2. 配当に関する事項

配当金支払額

平成23年 6月27日開催の定時株主総会決議による配当に関する事項

| | |
|----------|-------------|
| 株式の種類 | 普通株式 |
| 配当金の総額 | 135,560千円 |
| 1株当たり配当額 | 1,250円 |
| 基準日 | 平成23年 3月31日 |
| 効力発生日 | 平成23年 6月27日 |

基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成24年 6月25日開催の定時株主総会決議において、次のとおり決議することを予定しております。

| | |
|----------|-------------|
| 株式の種類 | 普通株式 |
| 配当金の総額 | 135,560千円 |
| 配当の原資 | 利益剰余金 |
| 1株当たり配当額 | 1,250円 |
| 基準日 | 平成24年 3月31日 |
| 効力発生日 | 平成24年 6月25日 |

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引は、リース取引開始日が「リース取引に関する会計基準」適用初年度開始前であるため、通常の賃貸借処理に係る方法に準じた会計処理によっております。

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額（単位：千円）

| | 前事業年度（平成23年 3月31日） | | |
|------|--------------------|------------|---------|
| | 取得価額相当額 | 減価償却累計額相当額 | 期末残高相当額 |
| 器具備品 | 3,237 | 2,461 | 776 |

(単位：千円)

| | 当事業年度（平成24年 3月31日） | | |
|------|--------------------|------------|---------|
| | 取得価額相当額 | 減価償却累計額相当額 | 期末残高相当額 |
| 器具備品 | 862 | 417 | 445 |

未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成23年 3月31日) | 当事業年度 (平成24年 3月31日) |
|-----|------------------------|------------------------|
| 1年内 | 342 | 174 |
| 1年超 | 462 | 287 |
| 合計 | 804 | 462 |

支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日) |
|--|---|---|
| | | |

| | | |
|----------|-------|-----|
| 支払リース料 | 1,383 | 361 |
| 減価償却費相当額 | 1,258 | 330 |
| 支払利息相当額 | 53 | 19 |

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は、自己勘定の資金運用にあたっては、資金運用規則に沿って、慎重な資金管理、資本金の保全、投機の回避に十分に留意しております。また、資金の管理にあたっては、投資信託委託会社としての業務により当社が受け入れる投資信託財産に属する金銭等との混同を来たさないよう、分離して行っております。

投資有価証券は主として利付国債と自社設定投資信託であります。これらは金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。自己資金運用に係るリスク管理等については、資金運用規則のほか自己資金運用に係るリスク管理規程に従い、適切なリスク管理を図っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注2参照)

前事業年度（平成23年3月31日）

(単位：千円)

| | 貸借対照表 計上額 | 時価 | 差額 |
|-----------|--------------|------------|--------|
| 現金・預金 | 6,270,894 | 6,270,894 | - |
| 有価証券 | | | |
| 満期保有目的の債券 | 4,028,251 | 4,044,880 | 16,628 |
| その他有価証券 | 6,994,842 | 6,994,842 | - |
| 投資有価証券 | | | |
| 満期保有目的の債券 | 10,512,627 | 10,567,760 | 55,132 |
| その他有価証券 | 6,341,364 | 6,341,364 | - |

当事業年度（平成24年3月31日）

(単位：千円)

| | 貸借対照表 計上額 | 時価 | 差額 |
|-----------|--------------|------------|--------|
| 現金・預金 | 1,324,746 | 1,324,746 | - |
| 有価証券 | | | |
| 満期保有目的の債券 | 4,010,705 | 4,019,880 | 9,174 |
| その他有価証券 | 4,298,900 | 4,298,900 | - |
| 投資有価証券 | | | |
| 満期保有目的の債券 | 18,362,076 | 18,430,810 | 68,733 |
| その他有価証券 | 6,899,008 | 6,899,008 | - |

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

現金・預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

有価証券

これらの時価について、譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから

当該帳簿価額によっており、譲渡性預金以外のものは決算日の市場価格等によっております。

投資有価証券

これらの時価について、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)は、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっており、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資以外のものは、決算日の市場価格等によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:千円)

| 区分 | 前事業年度 (平成23年3月31日) | 当事業年度 (平成24年3月31日) |
|-------|-----------------------|-----------------------|
| 非上場株式 | 132,500 | 67,500 |

非上場株式については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成23年3月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 5年以内 (千円) | 5年超 10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|--------------------------------------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金・預金 | 6,270,894 | - | - | - |
| 有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券 国債・地方債等 | 4,000,000 | 10,400,000 | - | - |
| 其他有価証券のうち満期があるもの 其他(注) | 8,732,095 | 2,405,100 | 1,236,025 | - |
| 合計 | 19,002,989 | 12,805,100 | 1,236,025 | - |

(注) 譲渡性預金、投資信託受益証券、国庫短期証券等であります。

当事業年度(平成24年3月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 5年以内 (千円) | 5年超 10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|--------------------------------------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金・預金 | 1,324,746 | - | - | - |
| 有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券 国債・地方債等 | 4,000,000 | 18,200,000 | - | - |
| 其他有価証券のうち満期があるもの 其他(注) | 6,301,000 | 2,409,250 | 1,459,100 | - |
| 合計 | 11,625,746 | 20,609,250 | 1,459,100 | - |

(注) 投資信託受益証券、国庫短期証券等であります

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前事業年度(平成23年3月31日)

| | 種類 | 貸借対照表計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|--|----|------------------|------------|------------|
|--|----|------------------|------------|------------|

| | | | | |
|--------------------|------------|------------|------------|--------|
| 時価が貸借対照表計上額を超えるもの | (1)国債・地方債等 | 12,507,839 | 12,583,440 | 75,600 |
| | (2)社債 | - | - | - |
| | (3)その他 | - | - | - |
| | 小計 | 12,507,839 | 12,583,440 | 75,600 |
| 時価が貸借対照表計上額を超えないもの | (1)国債・地方債等 | 2,033,039 | 2,029,200 | 3,839 |
| | (2)社債 | - | - | - |
| | (3)その他 | - | - | - |
| | 小計 | 2,033,039 | 2,029,200 | 3,839 |
| | 合計 | 14,540,878 | 14,612,640 | 71,761 |

当事業年度（平成24年3月31日）

| | 種類 | 貸借対照表計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|--------------------|------------|------------------|------------|------------|
| 時価が貸借対照表計上額を超えるもの | (1)国債・地方債等 | 21,338,974 | 21,416,990 | 78,015 |
| | (2)社債 | - | - | - |
| | (3)その他 | - | - | - |
| | 小計 | 21,338,974 | 21,416,990 | 78,015 |
| 時価が貸借対照表計上額を超えないもの | (1)国債・地方債等 | 1,033,806 | 1,033,700 | 106 |
| | (2)社債 | - | - | - |
| | (3)その他 | - | - | - |
| | 小計 | 1,033,806 | 1,033,700 | 106 |
| | 合計 | 22,372,781 | 22,450,690 | 77,908 |

2. その他有価証券

前事業年度（平成23年3月31日）

| | 種類 | 貸借対照表計上額 (千円) | 取得原価 (千円) | 差額 (千円) |
|----------------------|------------|------------------|--------------|------------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | 5,495,142 | 5,493,181 | 1,961 |
| | 国債・地方債等 | 5,495,142 | 5,493,181 | 1,961 |
| | 社債 | - | - | - |
| | その他 | - | - | - |
| | (3)その他（注1） | 3,659,502 | 2,608,636 | 1,050,865 |
| | 小計 | 9,154,645 | 8,101,818 | 1,052,826 |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | 999,700 | 999,761 | 61 |
| | 国債・地方債等 | 999,700 | 999,761 | 61 |
| | 社債 | - | - | - |
| | その他 | - | - | - |
| | (3)その他（注1） | 3,181,862 | 3,835,995 | 654,133 |
| | 小計 | 4,181,562 | 4,835,756 | 654,194 |
| | 合計 | 13,336,207 | 12,937,574 | 398,632 |

当事業年度（平成24年3月31日）

| | 種類 | 貸借対照表計上額 (千円) | 取得原価 (千円) | 差額 (千円) |
|--|----|------------------|--------------|------------|
|--|----|------------------|--------------|------------|

| | | | | |
|------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 貸借対照表計上額 が取得原価を超え るもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | 4,298,900 | 4,297,606 | 1,293 |
| | 国債・地方債等 | 4,298,900 | 4,297,606 | 1,293 |
| | 社債 | - | - | - |
| | その他 | - | - | - |
| | (3)その他（注1） | 4,307,034 | 3,281,746 | 1,025,288 |
| | 小計 | 8,605,934 | 7,579,352 | 1,026,581 |
| 貸借対照表計上額 が取得原価を超え ないもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | - | - | - |
| | 国債・地方債等 | - | - | - |
| | 社債 | - | - | - |
| | その他 | - | - | - |
| | (3)その他（注1） | 2,591,974 | 3,160,015 | 568,040 |
| | 小計 | 2,591,974 | 3,160,015 | 568,040 |
| 合計 | | 11,197,908 | 10,739,367 | 458,540 |

（注1）投資信託受益証券等であります。

（注2）非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」には含めておりません。

| 区分 | 前事業年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日） | 当事業年度 （自平成23年4月1日 至平成24年3月31日） |
|-------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 非上場株式 | 132,500千円 | 67,500千円 |

3．売却したその他有価証券

前事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

| 種類 | 売却額（千円） | 売却益の合計（千円） | 売却損の合計（千円） |
|--------|---------|------------|------------|
| (1)株式 | - | - | - |
| (2)債券 | - | - | - |
| (3)その他 | 561,210 | 35,991 | 17,676 |
| 合計 | 561,210 | 35,991 | 17,676 |

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

| 種類 | 売却額（千円） | 売却益の合計（千円） | 売却損の合計（千円） |
|--------|---------|------------|------------|
| (1)株式 | 90,200 | 25,200 | - |
| (2)債券 | - | - | - |
| (3)その他 | 31,237 | 90 | 1,778 |
| 合計 | 121,437 | 25,290 | 1,778 |

4．減損処理を行った有価証券

前事業年度において、有価証券について5,706千円（その他有価証券の投資信託受益証券5,706千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。

（退職給付関係）

1．採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度である退職一時金制度と確定拠出型年金制度を採用しております。退職一時金制度については、年俸制総合職および一般職を制度対象としております。なお、受入出向者については、退職給付負担金を支払っております。

2. 退職給付債務に関する事項

| | 前事業年度 (平成23年3月31日) | 当事業年度 (平成24年3月31日) |
|------------|-----------------------|-----------------------|
| (1)退職給付債務 | 644,223千円 | 767,977千円 |
| (2)退職給付引当金 | 644,223千円 | 767,977千円 |

(注) 当社は退職給付債務の算定方法として簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

| | 前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日) | 当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日) |
|------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| (1)勤務費用 | 130,059千円 | 132,222千円 |
| (2)退職給付負担金 | 33,151千円 | 24,353千円 |

(注) 福利厚生費として確定拠出型年金制度への拠出金

| | 前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日) | 当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日) |
|------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 福利厚生費として確定拠出型年金制度への拠出金 | 43,211千円 | 45,640千円 |

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

当社は簡便法によっているため、該当事項はありません。

(税効果会計関係)

| | 前事業年度 | 当事業年度 |
|--|------------------|--|
| | (平成23年3月31日) | (平成24年3月31日) |
| 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 | | |
| (流動資産) | | |
| 繰延税金資産 | | |
| 賞与引当金 | 221,131千円 | 204,554千円 |
| 未払事業税 | 18,935 | 19,923 |
| その他 | <u>55,977</u> | <u>49,981</u> |
| 繰延税金資産合計 | 296,044 | 274,458 |
| 繰延税金負債 | | |
| 有価証券評価差額 | <u>784</u> | <u>491</u> |
| 繰延税金負債合計 | <u>784</u> | <u>491</u> |
| 繰延税金資産の純額 | <u>295,260</u> | <u>273,967</u> |
| (固定資産) | | |
| 繰延税金資産 | | |
| 退職給付引当金 | 257,689 | 276,081 |
| 役員退職慰労引当金 | 4,510 | 4,857 |
| 税務上の繰延資産償却超過額 | 5,310 | 2,519 |
| 投資有価証券評価損 | 539,831 | 472,994 |
| 投資有価証券評価差額 | 261,653 | 212,965 |
| その他 | <u>30,323</u> | <u>6,911</u> |
| 小計 | <u>1,099,317</u> | <u>976,328</u> |
| 評価性引当額 | <u>120,282</u> | <u>106,755</u> |
| 繰延税金資産合計 | <u>979,034</u> | <u>869,573</u> |
| 繰延税金負債 | | |
| 特別分配金否認 | 58,098 | 50,467 |
| 投資有価証券評価差額 | <u>420,346</u> | <u>381,742</u> |
| 繰延税金負債合計 | <u>478,445</u> | <u>432,209</u> |
| 繰延税金資産の純額 | <u>500,589</u> | <u>437,364</u> |
| 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 | | |
| | 前事業年度 | 当事業年度 |
| | (平成23年3月31日) | (平成24年3月31日) |
| 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。 | | 法定実効税率 40.00% (調整) 交際費等永久に損金に算入されない項目 0.93 |
| | | 住民税均等割 0.85 |
| | | 税率変更に伴う影響 9.27 |
| | | その他 <u>1.32</u> |
| | | 税効果会計適用後の法人税等の負担率 49.73 |
| 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正 | | |
| 「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）および「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が、平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以降に開始する事業年度から法人税率が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。 | | |
| 平成24年3月31日まで 40.00% | | |
| 平成24年4月1日から平成27年3月31日 38.01% | | |
| 平成27年4月1日以降 35.64% | | |
| この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債を控除した金額）は48,216千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が63,484千円、その他有価証券評価差額金が15,268千円、それぞれ増加しています。 | | |

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

前事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1．サービスごとの情報

当社は、資産運用業の区分の外部顧客に対する営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

（1）営業収益

当社は、本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

当社は、本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

| 顧客の名称 | 営業収益 |
|------------|-----------|
| 日本生命保険相互会社 | 2,096,879 |

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1．サービスごとの情報

当社は、資産運用業の区分の外部顧客に対する営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

（1）営業収益

当社は、本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

当社は、本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：千円）

| 顧客の名称 | 営業収益 |
|------------|-----------|
| 日本生命保険相互会社 | 2,205,257 |

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

（関連当事者との取引）

1 関連当事者との取引

財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る。）等

前事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金又は出資金（百万円） | 事業の内容 | 議決権等の被所有割合 | 関連当事者との関係 | | 取引の内容 | 取引金額（千円） | 科目 | 期末残高（千円） |
|-----|------------|-----------|---------------|-------|-----------------|-------------------|--------|-----------|-----------|----------|----------|
| | | | | | | 役員の兼任等 | 事業上の関係 | | | | |
| 親会社 | 日本生命保険相互会社 | 大阪府大阪市中央区 | 250,000 | 生命保険業 | (被所有) 直接 90.00% | 兼任有 出向有 転籍有 | 営業取引 | 運用受託報酬の受取 | 1,352,450 | 未収運用受託報酬 | 296,706 |
| | | | | | | | | 投資助言報酬の受取 | 697,329 | 未収投資助言報酬 | 152,956 |
| | | | | | | | | 業務受託料の受取 | 47,100 | - | - |

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金又は出資金（百万円） | 事業の内容 | 議決権等の被所有割合 | 関連当事者との関係 | | 取引の内容 | 取引金額（千円） | 科目 | 期末残高（千円） |
|-----|------------|-----------|---------------|-------|-----------------|-------------------|--------|-----------|-----------|----------|----------|
| | | | | | | 役員の兼任等 | 事業上の関係 | | | | |
| 親会社 | 日本生命保険相互会社 | 大阪府大阪市中央区 | 250,000 | 生命保険業 | (被所有) 直接 90.00% | 兼任有 出向有 転籍有 | 営業取引 | 運用受託報酬の受取 | 1,525,483 | 未収運用受託報酬 | 383,091 |
| | | | | | | | | 投資助言報酬の受取 | 632,674 | 未収投資助言報酬 | 135,967 |
| | | | | | | | | 業務受託料の受取 | 47,100 | - | - |

（注）1．上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2．取引条件及び取引条件の決定方針等

取引条件は第三者との取引価格を参考に、一般的取引条件と同様に決定しております。

2 親会社に関する注記

親会社情報

日本生命保険相互会社（非上場）

（1株当たり情報）

| | 前事業年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日） | 当事業年度 （自平成23年4月1日 至平成24年3月31日） |
|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1株当たり純資産額 | 339,466円90銭 | 341,875円31銭 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 4,031円18銭 | 3,173円18銭 |

（注）1．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前事業年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日） | 当事業年度 （自平成23年4月1日 至平成24年3月31日） |
|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 当期純利益 | 437,174千円 | 344,126千円 |
| 普通株主に帰属しない金額 | - | - |
| 普通株式に係る当期純利益 | 437,174千円 | 344,126千円 |
| 期中平均株式数 | 108千株 | 108千株 |

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

[次へ](#)

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

第18期中間会計期間末
(平成24年9月30日現在)

資産の部

流動資産

| | |
|----------|-----------|
| 現金・預金 | 861,189 |
| 有価証券 | 7,213,238 |
| 前払費用 | 580,968 |
| 未収委託者報酬 | 1,413,920 |
| 未収運用受託報酬 | 974,209 |
| 未収投資助言報酬 | 153,445 |
| 繰延税金資産 | 193,172 |

| | |
|-----|--------|
| その他 | 41,624 |
|-----|--------|

| | |
|--------|------------|
| 流動資産合計 | 11,431,768 |
|--------|------------|

固定資産

| | | |
|--------|---|---------|
| 有形固定資産 | 1 | 262,947 |
|--------|---|---------|

| | |
|--------|-----------|
| 無形固定資産 | 1,227,694 |
|--------|-----------|

投資その他の資産

| | |
|--------|------------|
| 投資有価証券 | 26,318,839 |
|--------|------------|

| | |
|--------|---------|
| 繰延税金資産 | 545,994 |
|--------|---------|

| | |
|-----|---------|
| その他 | 283,609 |
|-----|---------|

| | |
|------------|------------|
| 投資その他の資産合計 | 27,148,443 |
|------------|------------|

| | |
|--------|------------|
| 固定資産合計 | 28,639,084 |
|--------|------------|

| | |
|------|------------|
| 資産合計 | 40,070,853 |
|------|------------|

負債の部

流動負債

| | |
|-------|---------|
| 未払手数料 | 548,329 |
|-------|---------|

| | |
|----------|---------|
| 未払運用委託報酬 | 430,444 |
|----------|---------|

| | |
|----------|---------|
| 未払投資助言報酬 | 140,037 |
|----------|---------|

| | |
|--------|---------|
| その他未払金 | 179,488 |
|--------|---------|

| | |
|------|--------|
| 未払費用 | 99,347 |
|------|--------|

| | |
|--------|---------|
| 未払法人税等 | 129,746 |
|--------|---------|

| | |
|----------|--------|
| 前受投資助言報酬 | 70,261 |
|----------|--------|

| | |
|-------|---------|
| 賞与引当金 | 372,279 |
|-------|---------|

| | |
|-----|---------|
| その他 | 219,373 |
|-----|---------|

| | |
|--------|-----------|
| 流動負債合計 | 2,189,308 |
|--------|-----------|

固定負債

| | |
|---------|---------|
| 退職給付引当金 | 821,839 |
|---------|---------|

| | |
|-----------|-------|
| 役員退職慰労引当金 | 9,100 |
|-----------|-------|

| | |
|--------|---------|
| 固定負債合計 | 830,939 |
|--------|---------|

| | |
|------|-----------|
| 負債合計 | 3,020,247 |
|------|-----------|

| | |
|--------------|-------------------|
| 純資産の部 | |
| 株主資本 | |
| 資本金 | 10,000,000 |
| 資本剰余金 | |
| 資本準備金 | 8,281,840 |
| 資本剰余金合計 | <u>8,281,840</u> |
| 利益剰余金 | |
| 利益準備金 | 139,807 |
| その他利益剰余金 | |
| 配当準備積立金 | 120,000 |
| 研究開発積立金 | 70,000 |
| 別途積立金 | 350,000 |
| 繰越利益剰余金 | 18,001,445 |
| 利益剰余金合計 | <u>18,681,252</u> |
| 株主資本合計 | <u>36,963,092</u> |
| 評価・換算差額等 | |
| その他有価証券評価差額金 | 87,512 |
| 評価・換算差額等合計 | <u>87,512</u> |
| 純資産合計 | <u>37,050,605</u> |
| 負債・純資産合計 | <u>40,070,853</u> |

(2)中間損益計算書

(単位：千円)

第18期中間会計期間

(自平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

| | | |
|--------------|---|-----------|
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | | 4,485,618 |
| 運用受託報酬 | | 2,469,602 |
| 投資助言報酬 | | 338,891 |
| 業務受託料 | | 23,614 |
| 営業収益計 | | 7,317,725 |
| 営業費用 | | 3,610,733 |
| 一般管理費 | 1 | 3,250,777 |
| 営業利益 | | 456,214 |
| 営業外収益 | 2 | 88,157 |
| 営業外費用 | 3 | 15,890 |
| 経常利益 | | 528,480 |
| 特別利益 | 4 | 107,408 |
| 特別損失 | 5 | 120,776 |
| 税引前中間純利益 | | 515,112 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 120,655 |
| 法人税等調整額 | | 91,382 |
| 法人税等合計 | | 212,037 |
| 中間純利益 | | 303,074 |

(3) 中間株主資本等変動計算書

(単位：千円)

第18期中間会計期間

(自平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

| | |
|-----------|------------|
| 株主資本 | |
| 資本金 | |
| 当期首残高 | 10,000,000 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 10,000,000 |
| 資本剰余金 | |
| 資本準備金 | |
| 当期首残高 | 8,281,840 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 8,281,840 |
| 資本剰余金合計 | |
| 当期首残高 | 8,281,840 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 8,281,840 |
| 利益剰余金 | |
| 利益準備金 | |
| 当期首残高 | 139,807 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 139,807 |
| その他利益剰余金 | |
| 配当準備積立金 | |
| 当期首残高 | 120,000 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 120,000 |
| 研究開発積立金 | |
| 当期首残高 | 70,000 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 70,000 |
| 別途積立金 | |
| 当期首残高 | 350,000 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 350,000 |
| 繰越利益剰余金 | |
| 当期首残高 | 17,833,930 |
| 当中間期変動額 | |
| 剰余金の配当 | 135,560 |
| 中間純利益 | 303,074 |
| 当中間期変動額合計 | 167,514 |
| 当中間期末残高 | 18,001,445 |
| 利益剰余金合計 | |
| 当期首残高 | 18,513,737 |
| 当中間期変動額 | |
| 剰余金の配当 | 135,560 |

| | |
|-----------------------|------------|
| 中間純利益 | 303,074 |
| 当中間期変動額合計 | 167,514 |
| 当中間期末残高 | 18,681,252 |
| 株主資本合計 | |
| 当期首残高 | 36,795,577 |
| 当中間期変動額 | |
| 剰余金の配当 | 135,560 |
| 中間純利益 | 303,074 |
| 当中間期変動額合計 | 167,514 |
| 当中間期末残高 | 36,963,092 |
| 評価・換算差額等 | |
| その他有価証券評価差額金 | |
| 当期首残高 | 280,116 |
| 当中間期変動額 | |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | 192,603 |
| 当中間期変動額合計 | 192,603 |
| 当中間期末残高 | 87,512 |
| 評価・換算差額等合計 | |
| 当期首残高 | 280,116 |
| 当中間期変動額 | |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | 192,603 |
| 当中間期変動額合計 | 192,603 |
| 当中間期末残高 | 87,512 |
| 純資産合計 | |
| 当期首残高 | 37,075,694 |
| 当中間期変動額 | |
| 剰余金の配当 | 135,560 |
| 中間純利益 | 303,074 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | 192,603 |
| 当中間期変動額合計 | 25,088 |
| 当中間期末残高 | 37,050,605 |

（重要な会計方針）

| 項目 | 第18期中間会計期間 （自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日） |
|-------------------------|--|
| 1．有価証券の評価基準及び評価方法 | 満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）によっております。 その他有価証券 時価のあるもの ...中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。 時価のないもの ...移動平均法に基づく原価法によっております。 |
| 2．固定資産の減価償却の方法 | 有形固定資産 定額法によっております。なお、主な耐用年数は、建物3～15年、車両6年、器具備品2～20年であります。 無形固定資産 定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。 |
| 3．引当金の計上基準 | 賞与引当金 従業員への賞与の支給に充てるため、当中間会計期間末在籍者に対する支給見込額のうち当中間会計期間の負担額を計上しております。 退職給付引当金 従業員への退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額（簡便法により自己都合退職による中間会計期間末要支給額の100%）を計上しております。 なお、受入出向者については、退職給付負担金を出向元に支払っているため、退職給付引当金は計上しておりません。 役員退職慰労引当金 役員への退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく中間会計期間末要支給額を計上しております。 |
| 4．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 | 外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。 |
| 5．リース取引の処理方法 | 平成20年3月31日以前に契約をした、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 |
| 6．消費税等の会計処理 | 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。なお、仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、流動資産の「その他」に含めて表示しております。 |

（会計方針の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、当中間会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当中間会計期間の減価償却費が911千円減少し、営業利益、経常利益及び税引前中間純利益はそれぞれ911千円増加しております。

（注記事項）

[中間貸借対照表関係]

| 第18期中間会計期間末 (平成24年9月30日現在) | |
|-------------------------------|-----------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 822,082千円 |

[中間損益計算書関係]

| 第18期中間会計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日) | |
|---|-----------|
| 1. 減価償却の実施額 | |
| 有形固定資産 | 37,633千円 |
| 無形固定資産 | 240,255千円 |
| 2. 営業外収益のうち主要なもの | |
| 有価証券利息 | 44,672千円 |
| 受取配当金 | 31,458千円 |
| 補助金収入 | 9,500千円 |
| 受取利息 | 115千円 |
| 3. 営業外費用のうち主要なもの | |
| 為替差損 | 15,252千円 |
| 4. 特別利益のうち主要なもの | |
| 投資有価証券売却益 | 105,652千円 |
| 投資有価証券償還益 | 1,755千円 |
| 5. 特別損失のうち主要なもの | |
| 投資有価証券売却損 | 119,106千円 |
| 投資有価証券償還損 | 152千円 |
| 事故損失賠償金 | 1千円 |
| 固定資産除却損 | |
| 建物 | 1,481千円 |
| 器具備品 | 35千円 |
| 計 | 1,516千円 |

[中間株主資本等変動計算書関係]

第18期中間会計期間
(自 平成24年4月1日
至 平成24年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 前事業年度末 株式数(千株) | 当中間会計期間増加 株式数(千株) | 当中間会計期間減少 株式数(千株) | 当中間会計期間末 株式数(千株) |
|-------|-------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 108 | - | - | 108 |
| 合計 | 108 | - | - | 108 |

2. 配当に関する事項
配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------------|---------------------|------------|------------|
| 平成24年6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 135,560 | 1,250 | 平成24年3月31日 | 平成24年6月25日 |

[リース取引関係]

第18期中間会計期間
（自平成24年4月1日
至平成24年9月30日）

1. リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンス・リース取引は、リース取引開始日が「リース取引に関する会計基準」適用初年度開始前であるため、通常の賃貸借処理に係る方法に準じた会計処理によっております。その内容は以下のとおりであります。

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び中間会計期間末残高相当額

| | 取得価額 相当額 | 減価償却 累計額 相当額 | 中間 会計期間末残高 相当額 |
|------------------|-------------|--------------------|----------------------|
| 有形固定資産 (器具備品) | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 862 | 503 | 359 |

未経過リース料中間会計期間末残高相当額

| | |
|-----|-------|
| 1年内 | 177千円 |
| 1年超 | 198千円 |
| 合計 | 375千円 |

当中間会計期間の支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

| | |
|----------|------|
| 支払リース料 | 93千円 |
| 減価償却費相当額 | 86千円 |
| 支払利息相当額 | 6千円 |

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

2. オペレーティング・リース取引
該当取引はありません。

〔金融商品関係〕

第18期中間会計期間末（平成24年9月30日現在）

金融商品の時価等に関する事項

平成24年9月30日（中間決算日）における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（注2を参照ください）。

（単位：千円）

| | 中間貸借対照表 計上額 | 時価 | 差額 |
|-----------|----------------|------------|---------|
| 現金・預金 | 861,189 | 861,189 | - |
| 有価証券 | | | |
| 満期保有目的の債券 | 4,013,898 | 4,022,770 | 8,871 |
| その他有価証券 | 3,199,340 | 3,199,340 | - |
| 投資有価証券 | | | |
| 満期保有目的の債券 | 20,430,130 | 20,531,710 | 101,579 |
| その他有価証券 | 5,821,209 | 5,821,209 | - |

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

現金・預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

有価証券

これらの時価は、中間決算日の市場価格等によっております。

投資有価証券

これらの時価は、中間決算日の市場価格等によっております。

（注2）非上場株式（中間貸借対照表計上額67,500千円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

〔有価証券関係〕

第18期中間会計期間末（平成24年9月30日現在）

1. 満期保有目的の債券

| | 種類 | 中間貸借対照表 計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|------------------------------|------------|------------------------|------------|------------|
| 時価が中間貸借 対照表計上額を 超えるもの | (1)国債・地方債等 | 23,639,299 | 23,749,760 | 110,460 |
| | (2)社債 | - | - | - |
| | (3)その他 | - | - | - |
| | 小計 | 23,639,299 | 23,749,760 | 110,460 |
| 時価が中間貸借 対照表計上額を 超えないもの | (1)国債・地方債等 | 804,729 | 804,720 | 9 |
| | (2)社債 | - | - | - |
| | (3)その他 | - | - | - |
| | 小計 | 804,729 | 804,720 | 9 |
| 合計 | | 24,444,029 | 24,554,480 | 110,450 |

2. その他有価証券

| | 種類 | 取得原価 (千円) | 中間貸借対照表 計上額 (千円) | 差額 (千円) |
|--------------------------------|-------------|--------------|------------------------|------------|
| 中間貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | 2,899,052 | 2,899,430 | 377 |
| | 国債・地方債 等 | 2,899,052 | 2,899,430 | 377 |
| | 社債 | - | - | - |
| | その他 | - | - | - |
| | (3)その他 | 2,675,650 | 3,428,202 | 752,552 |
| | 小計 | 5,574,702 | 6,327,632 | 752,930 |
| 中間貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | 299,928 | 299,910 | 18 |
| | 国債・地方債 等 | 299,928 | 299,910 | 18 |
| | 社債 | - | - | - |
| | その他 | - | - | - |
| | (3)その他 | 2,999,200 | 2,393,007 | 606,192 |
| | 小計 | 3,299,128 | 2,692,917 | 606,211 |
| 合計 | | 8,873,830 | 9,020,549 | 146,718 |

(注1) 非上場株式（中間貸借対照表計上額67,500千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

[デリバティブ取引関係]

第18期中間会計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

第18期中間会計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第18期中間会計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

1．サービスごとの情報

当社は、資産運用業の区分の外部顧客に対する営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

（1）営業収益

当社は、本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

当社は、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

| 顧客の名称 | 営業収益 |
|------------|-----------|
| 日本生命保険相互会社 | 1,254,877 |

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

第18期中間会計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

第18期中間会計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

第18期中間会計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

該当事項はありません。

[1株当たり情報]

| | 第18期中間会計期間 （自平成24年4月1日 至平成24年9月30日） |
|------------|---|
| 1株当たり純資産額 | 341,643円97銭 |
| 1株当たり中間純利益 | 2,794円65銭 |

（注）1．潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2．1株当たり中間純利益の算定上の基礎は以下のとおりであります。

| | |
|--------------|------------------|
| 中間純利益 | 303,074千円 |
| 普通株主に帰属しない金額 | - |
| 普通株式に係る中間純利益 | <u>303,074千円</u> |
| 期中平均株式数 | 108千株 |

〔重要な後発事象〕

第18期中間会計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます）。

通常の見積りの条件と異なる条件であって見積りの公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ）と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記 に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは見積りの公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

定款の変更等

該当事項はありません。

訴訟その他の重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

a. 名称

三菱UFJ信託銀行株式会社

b. 資本金の額

平成24年9月末現在、324,279百万円

c. 事業の内容

銀行法に基づき監督官庁の免許を受けて銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき監督官庁の認可を受けて信託業務を営んでいます。

(参考) 再信託受託会社の概況

a. 名称

日本マスタートラスト信託銀行株式会社

b. 資本金の額

平成24年9月末現在、10,000百万円

c. 事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

(平成24年9月末現在)

| a. 名称 | b. 資本金の額 | c. 事業の内容 |
|----------|----------|-------------------------------|
| 内藤証券株式会社 | 3,002百万円 | 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |

2【関係業務の概要】

(1) 受託会社

投資信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。

(2) 販売会社

証券投資信託の募集の取扱いおよび販売を行い、一部解約に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を代行します。

3【資本関係】

該当事項はありません。

第3【その他】

- (1) 目論見書の表紙に図案や委託会社の名称およびロゴマーク、イラストを使用すること、またファンドの基本的性格および形態の一部、キャッチコピー、当該届出書に係る目論見書の使用開始日を記載することがあります。
- (2) 届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」に記載の内容について、投資者の理解を助けるため、その内容を説明した図表等を付加して目論見書のその内容に関連する箇所に記載することがあります。
- (3) 投資者へ投資信託の仕組み等を説明するため、また届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」に記載の内容について投資者の関係法人への照会方法を明確にするため、交付目論見書に以下の内容を記載することがあります。
 - ・ ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律に基づいて組成された金融商品であり、同法では商品内容の重大な変更の際には、事前に受益者（既にファンドをお持ちの投資者）の意向を確認する手続きが規定されています。また、ファンドの信託財産は、受託会社により保管されますが、信託法によって受託会社の固有財産との分別管理等が義務付けられています。
 - ・ 商品内容・販売会社に関するお問合せや、資料のご請求などを委託会社のコールセンターで承っております。
 - ・ 基準価額については、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊および委託会社のコールセンター・ホームページにてご確認いただけます。
なお、委託会社（ニッセイアセットマネジメント株式会社）への照会先は下記の通りです。
コールセンター 0120-762-506
（午前9時～午後5時 土、日、祝祭日は除きます）
ホームページ <http://www.nam.co.jp/>
- (4) 目論見書に以下の内容を記載することがあります。
投資信託説明書（請求目論見書）は、販売会社にご請求いただければ、当該販売会社を通じて交付いたします。
- (5) 目論見書に約款を掲載し、届出書本文「第二部 ファンド情報 第1ファンドの状況 2 投資方針」の詳細な内容については、当該約款を参照する旨を記載することで、目論見書の内容の記載とすることがあります。
- (6) 目論見書の巻末に用語集を掲載することがあります。
- (7) 目論見書は電子媒体等として使用される他、インターネット等に掲載されることがあります。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月8日

ニッセイアセットマネジメント株式会社

取締役会御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小暮和敏 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大竹 新 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているニッセイアセットマネジメント株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第17期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ニッセイアセットマネジメント株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、当社（ニッセイアセットマネジメント株式会社）が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[次△](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成24年11月28日

ニッセイアセットマネジメント株式会社

取締役会御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 小暮和敏 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 大竹 新 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているニッセイアセットマネジメント株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第18期事業年度の中間会計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ニッセイアセットマネジメント株式会社の平成24年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、当社（ニッセイアセットマネジメント株式会社）が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。